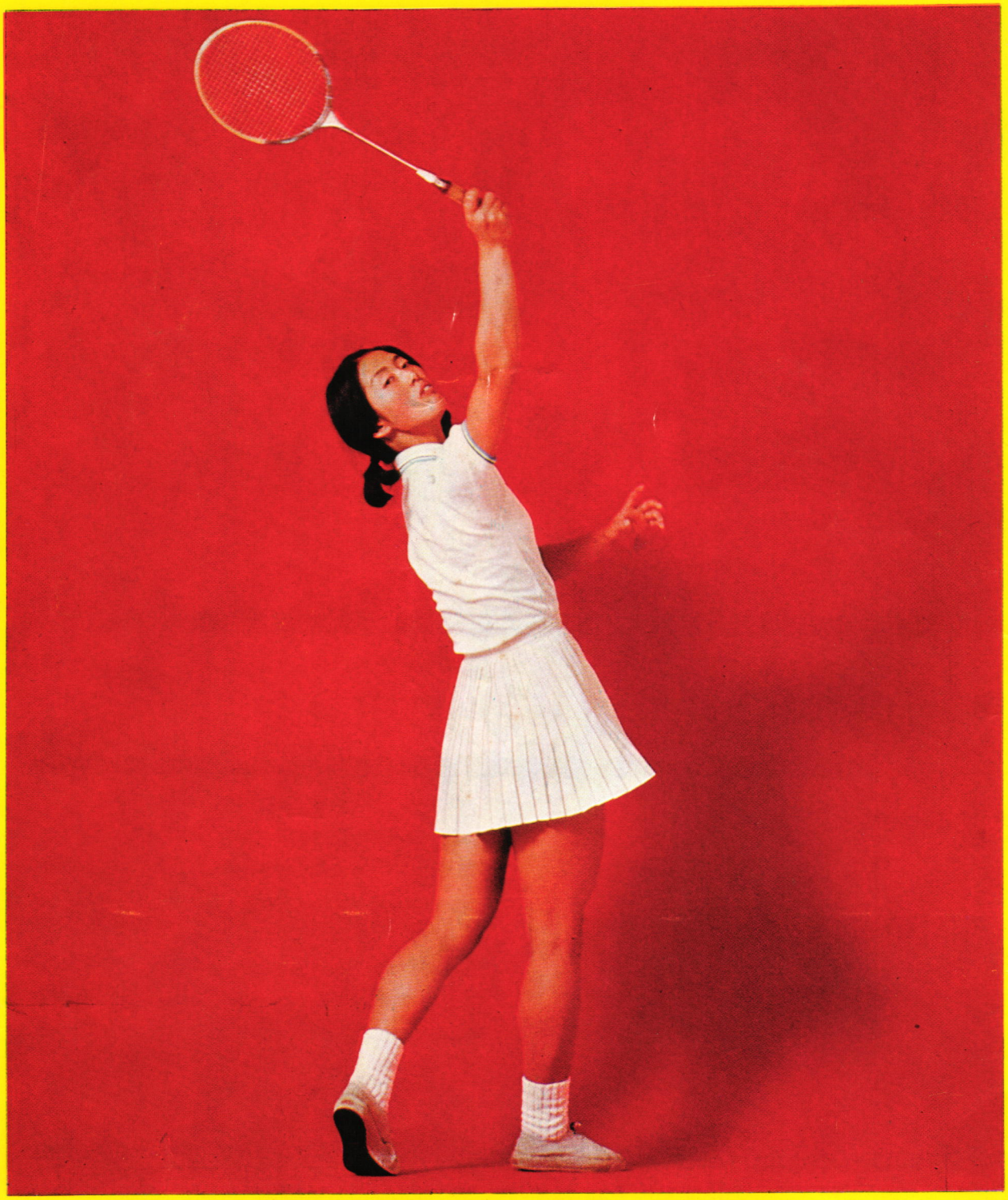
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年12月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

no.28
12
1971

THE BADMINTON WORLD



No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/¥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

広い視野，柔軟な心を持とう

一年を終わるにあたって

広い視野、豊かで柔軟性のある心を持ってバドミントンを育てよう。一年をしめくくるにあたって、とくにこのことを強調しておきたい。

この雑誌がスタートして、はや二年半、28号を数えた。建て前はあくまでも「日本協会が発行する機関誌」だが、本誌の編集は、いわば〝党内野党〟の立ち場を貫ぬき、協会関係の活動推進に協力するかたわら、その足りないところを指摘し、批判勢力としての姿勢を持ち続けてきた。

批判のないところに進歩はあり得ない。この競争の激しい世の中で、ぬるま湯につかったように、狭い自分たちだけの社会にとじこもっていては、なにもできない。バトミントンの世界を運営し、指導していく人々の集まりは、単なる〝仲良しクラブ〟ではいけない。

オーバーな表現だが、前回のユ杯東京開催（69年）成功を機に、バドミントンの社会は〝鎖国〟状態からめざめ、外界にむかって、解き放たれた。

以来、新しいアマ規定の採択、全国中学生大会の実施、中国との交流への姿勢の確立、新年度、再度ユ杯の東京開催決定など、いくつかの活動が着々として進められてきた。

今月の話題

これとともに、国内スポーツ界でのバトドミントンに対する認識も変化し、バレーやサッカーのように、すでに大きく根を張った競技とは比較できないにしても、その存在が、かなり注目されるようになった。

この勢いをもってすれば、数年のうちに、白いシャトルで全国の空を埋めつくすことも、決して夢ではない。だが、これは好意的な見方であって、現状は甘くない。これまでの活動の発展も、微々たるものにすぎなかった、という厳しい見方をする方が正しいだろう。

なぜ、バドミントンは歯がゆい歩みしかできなかったのだろうか。一つは中央、地方を問わず、協会組織の歴史が浅いこと、もう一つは、財政的基盤が弱く、やりたいことをやれぬ事情が、理由としてあげられる。

しかし、あえて、はっきりいうならば、もう一つの大きな原因は、関係者一同の情熱不足である。今日、忙しいのはだれでも同じ。アマ団体は、チエあるものはチエを、豊かなものはお金を、時間のあるものは時間を、それぞれ供出し合うことで成り立っている。

しだいにふえつつある全国の愛好者は、なにかに飢えている。組織や役員、指導者、知名の選手たちと、手を結びたいと願っている。競技は好きでも、その世界に魅力がなければ、みなみなビアフラの難民のように、逃げ出すだろう。選手のタマゴは他のスポーツに移動するだろう。

「バスに乗りおくれるな」とひとマネばかりするのが能ではない。しかし、年中行事を消化してこと足れりとはいえない。

スポーツ界全体の国の内外の動きをよく見つめ、広い視野に立って、具体的な手を打つことを期待したい。

今月号のダイジェスト

☆ホープ順調に成長　十一月の全日本学生で、男子シングルスは谷口（立大）女子シングルスは柴山（東大阪短大）が初優勝、次代のホープといわれる選手が順調に成長を続けていることを裏付けた。学生界最大の行事であるインカレを詳報してみた。（P2～5）

☆女子学生界を展望する　続いて、次期のエース、ユ杯の中心選手と目されるのはだれか、前号の男子についで、今号では女子学生界の群像を点描してみる（P6～7）

☆小島ら海外で大活躍　46年度は、春の海外遠征のあと、男子のトップクラスもカナダ、インドネシア、シンガポールの三大会に遠征し、次期ト杯に対する備えを充分に積んだ。なかでも小島はカルガリ国際（カナダ）シンガポール・オープンの二つを制し、依然、エースとしての実力を発揮した。これら一連の遠征については、これまで本誌で紹介するチャンスがなかったので、ここに一括して、お知らせする（P8～9）

☆ワイド版〝読者の広場〟　このところ、二号続けて、このコラムがお留守になったので、思い切って4ページのワイドを組んだ。

北から南から、各地での興味ある話題がピンからキリまで、盛りだくさん（P10～13）

☆さようなら71年、写真グラフ落穂集　本誌は、つねづね全国の広い愛好者層から、記事に関しても、ご支持、協力をいただいているが、紙面のつごうで、なかなか収録しきれないものがある。

そうしたものの写真を、この一年の足跡を振り返る意味も込め、12ページ建てのグラフに仕立ててみた（P15～26）

☆このほか　〝百万人の上達法シリーズ〟も快調。伊藤先生は再びホームポジションを追及、佐藤先生は、相手のネット前を制するアイデアを説く。

今月号の製作協力スタッフ
表紙撮影・松井亮磨／同制作・小浜正道／グラフ・山田真市ほか関係者、読者／カット　秦浩

法大が七年ぶり三度目

団体戦　女子は東大阪が連続

全日本学生選手権大会は十一月五日から仙台市県スポーツセンターで行なわれた。団体戦男子は法大が早大をくだし七年ぶりに三度目の王座へ。女子は東大阪短大が順当に二連勝した。個人戦の男子単は谷口（立大）が本命の遠藤（日大）を破り同複は法大の草島・田所組がそれぞれ初優勝した。女子はNO1の柴山（東大阪）が単についで高崎と組んだ複も制した。東大阪は女子完全優勝。東西対抗は総合では僅差で東軍（16連勝19度目）



第22回全日本学生選手権大会（11月5日～12日・仙台市）

女子は西軍が9度目の王座（**写真は読者の井伊恵治氏、学連保坂佳人氏提供**）

結果は法大に有利とならざるを得なかった。

第一複、ゲームを先取した早大・及川組は、第二ゲーム以後勝負をあせり、プレーが小さくなった。一方、法大・笠井組はレシーブ力で上回り、自信のあるところを見せた。

エースの対決した第二複は、お互い最初の二ゲームでは本来の力を発揮できず、凡ミスの連続。ファイナルでやっとエンジンがかかり、攻撃力にまさる草島が早い攻めで勝った。

シングルスはどうしても落とせない。心理的緊張に包まれたが、法大笠井は近来にない意欲的な試合を展開し、今井の武器のスマッシュを拾いまくり、総合力で勝利の栄冠をつかんだ。

法大優勝の因は、オーダーの成功のほか、選手の一人一人が勝負に対する認識度が強いことだろう。こういう言葉で表現していいかは疑問だが、法大にはど根性があった。（大月田茂夫）

◆男子団体戦

▼準決勝

早　大3（複2―0）0中　大
　（単1―0）
法　大3（複1―1）2日　大
　（単2―1）

▼三位決定戦

日　大3（複1―1）2中　大
　（単2―1）

▼決　勝

法　大3（複2―0）0早　大
　（単1―0）

○笠　井2（12―15　1及　川
　（15―9
　―10）
浜　谷2（15―11　0本　間
　―9）

○田　所2（11―15　1今　井
　―15
　―13）
草　島2（15―11　0今　井
　―9）

○笠　井2（15―11　0今　井
　―9）

法大が優勝するためには複を2―0、早大は悪くとも1―1にする必要があった。法大にはダブルスに伝統の強みがあり、早大はシングルスに自信を持っていたからだ。

このため、両校ともトップ・ダブルスを二番手にはずしたが、

◆女子団体戦

▼準決勝

東大阪　3（複1―1　1東女体
　（単2―0）
短　大　3（複2―0　0日女体
　（単1―0）

▼三位決定戦

日女体　3（複1―1　1東女体
　（単2―1）
大　体　3（複1―1　2大
　（単2―1）

▼決　勝

東大阪　3（複2―0　1日女体
　（単1―1）
短　大　3（単1―1　1大

○柴　山2（15―8　0池　田
　―11）
高　崎2（15―11　0塩　崎

○石　崎2（15―3　0谷　沢
　―4）
大　場2（15―3　0遠　藤

池田（日女体）殊勲、柴山退ける

柴　山0（7―11　2池　田○
　（9―11）
○高　崎2（11―6　0塩　崎
　―4）

女子決勝、第一複は、終始、柴山組がリード、クロス攻撃にいっそうの冴えを見せた。

続く第二複は石崎組が谷沢組の立ち上がりのまずさを突き、二ゲームめも石崎の好リードに谷沢組はすっかり精彩を欠き、東大阪が2勝めをもぎとった。

しかし、波乱はその後に来た。注目の第一戦、関西のNo1柴山に対して日女体の若手、

池田。序盤、波に乗れず、1ゲーム失った柴山は、第二ゲーム、一気に引き離そうとする池田にぴったりついた。追いあげて10—9と迫ったが、時すでに一歩遅く、池田が得点して、初の白星をあげた。

日女体の期待をになった塩崎が第二戦で出場した。しかし東大阪高崎は好調の出足でゲームを先取したあと、二ゲームめも高崎優勢。塩崎はスタミナ不足からか、攻撃に甘さが目立ち、8—2とリードされてからは一本を返しただけでマッチポイントを迎えてしまった。

（鈴木信夫）

谷口（立）遠藤に雪辱
複は快調の草島組（法）

◆男子シングルス

▼準決勝

遠藤（日）2（15—9 8—0）0二上

谷口（立）2（15 11—15 12—15）1田所（法）

▼三位決定

田所 2（15—3 7—0）0二上

▼決勝

谷口 2（15 2—15 12—15）1遠藤

三年生同士の決勝は内容も充実、気力にあふれた試合だった。谷口は東日本の雪辱を果したいところだし、遠藤は学生界のタイトルをこれで独占できるチャンス。

準決までストレート勝ちの遠藤は、かたさが感じられる（ミス多く、ネット前がぎこちない）谷口を寄せつけず、第一ゲームをとった。しかし一気に決めようとする遠藤に対し、谷口は第二ゲームよく戦った。9～12から第一ゲームで悩まされたショート・サービスを逆に使って6点を連取、ファイナルへ。

追いついた谷口に対し、最近追い込まれたことのない遠藤にあせりが出る。シャトルを落とす戦法（カット、ネット、スマッシュの多用）も効果なく、中盤7—9と追いあげたのが精いっぱい。谷口久しぶり充実感を見せ、スタミナも十分、持ち味のスマッシュもよく決まった。

（桐竹 賢）

◆男子ダブルス

▼準決勝

草島（法）田所 2（15—7 15—7）0牧野（日）遠藤

木戸（日）間（体）田（近） 2（15 14—17 15—6）1植田 岩田

▼三位決定

草島（法）田所 2（15—7 15—10）0木戸間

三位決定は実力からしてやはり差があった。内容を見るとすれば、近大組は打ち急いでいたし、日大は落ちついてレシーブにまわった感じが濃かった。

決勝、第一ゲームは6—12から日体ペアが四年生のキャリアで、セッティングまで追い込んだ。しかし力つきたが、ここからミスが目立ち、2—1から田所のショートのネットインを木戸がミスしてゲームを落した。

第二ゲームにはいると、最近好調の三年生草島組が、余勢をかって早いテンポで攻め、終始、安全圏のリードを保って、大会初の優勝を飾った。

（槇 一博）



谷口（後むき）と遠藤

▼決勝

牧野 2（15—1 2—0）0植田

遠藤 2（15—2）0岩田

〝注目〟におろおろ

○…インカレの開会式が、おごそかに進められている間、関東学連のO、S両氏は、後ろ正面観客席で後援社旗のはりつけに余念がない。と、その時、意外な事態が持ち上がったのである。〝国旗掲揚〟の場内放送によって、正面を向いていた全選手が、後ろで奮闘中のO、S両氏の方を振り返ったからだった。

あわてたのはこの二人。あまり突然だったため、身のおきどころにただオロオロするばかり。壇上の全日本学連他関係者は、これを見て笑いをこらえるのに必死だったとか。とんだハプニングでした。

海賊版インカレが夜間興行

○…地元東北学連×全日本・関東学連連合軍の対抗試合が11月9日夜半、同会場において〝2複4単1ゲーム・マッチ〟で行なわれた。

まずダブルスは東北学連の圧倒的勝利。特に第2ダブルス連合軍のO・K組、名の如くまかしとけと勇んで出るも、汗もかかないうちにK・Oされた。連合軍危しと思われたが、そこは根生のある伊達男、保坂・桐竹・鈴木と四年生大奮闘。三者と

柴山、高坂を軽く押し出す



高崎（左）柴山

◆女子シングルス

▼準決勝

柴山（東大阪）2（1111—7）0小片（日体）

高坂（青学）2（1111—4 8—0）0高崎（東大阪）

▼三位決定

小片 2（1111—3 6—11 7—0）0高崎

▼決勝

柴山 2（1111—3 2—0）0高坂

ユ杯候補、しかも東西の女王同士の決勝。熱戦を期待したが、結果は一方的であっけなかった。

第一ゲーム柴山4—1とリード。高坂このあと四度のサービス権で一度もポイントできず、柴山が10—3。ゲーム・ポイントを握り柴山が切れ味よいドロップで一ゲームをとった。

第二ゲームでも柴山のスピーディな攻めに、高坂の足がついていかない。受けにまわった相手に、柴山6—2から一度もサービス権を与えず楽勝した。

（保坂佳人）

◆女子ダブルス

▼準決勝

柴山 高崎（東大阪）2（1515—10 7—0）0堀川 陣内（日体）

塩崎 池田（日女体）2（1515—1 12—0）0小片 横尾（日体）

▼三位決定

堀川 陣内 2（1515—6 6—0）0小行 横尾

▼決勝

柴山 高崎 2（15101—15 4—1）1塩崎 池田

柴山、複も圧勝

ベスト8には関東勢が七組、西日本関西両選手権優勝の石崎 大場（東大阪）は柿崎・野島（東女体）のねばりに、エイト入り前に敗れ去った。

決勝の第一ゲームは、張り切る日女体ペア、固くなってかイージーミスが続いて敗れる。第二ゲーム、ペースを戻してがんばりスマッシュ、ネットが冴え逆に11—4とリード。勝負はファイナルへ。

しかし、ここで柴山高崎はクロスを多用して相手を振りまわし10—0と圧倒、メドをつけた。柴山組のネット前の早さ、レシーブのうまさが光った。

（表義章）

▼…東西対抗戦…▲

東軍 8（男子7—2 女子1—4）6 西軍

◇男子

遠藤（日）2（1515—4 6—0）0菅原（近）

岩淵（東北学）2（1515—4 8—0）0阪東（関）

谷口（立）2（1515—7 10—0）0山内（関学）

草島 田所（法）2（1515—5 3—0）0小林 阪本（関）

尾崎（中）0（3—15 9—15）2植田 岩田（近）

笠井 大和田（法）2（1515—3 9—0）0足立 菅原（近）

二上（早）0（13—15 4—18）2植田（近）

牧野（日）2（1515—10 8—0）0岩田（近）

◇女子

今井（早）2（1515—12 7—0）0小林（関）

堀川 陣内（日体）0（12 12—15）2柴山 高崎（東大阪）

栗原 名和（東女体）2（1515—6 7—0）0坂本 大場（東大阪）

高坂（青学）0（11 0—11 11—0）2石崎（東大阪）

塩崎（日女体）0（3 10—11 11—12）2柴山（東大阪）

谷沢（日女体）1（7 12—11 11—15）2高崎（東大阪）





もセッティングの逆転勝ちで、三勝二敗とリード。（これは、応援団の「負けたら夕飯抜きだぞ」の心からの大声援の賜物であろう）

結局、東北学連の頑張りに引きわけで無事終了。本番では圧倒的に強い関東勢なのに、学連対抗では、引き分け。これは某情報によると東北学連の補強工作がうまくいったとか。

新型サービスジャッジ板登場

○…新兵器登場。透明な板に細い線を引いたサービス・ジャッジ板が使用された。

アメリカ等では以前より採用されているが、我が国では、今年の国体で使われたのが初めてだそうである。見やすいと大変、好評であった。他の大会でも使用されるとよいのではないか。いや、判定が厳しくなるから、選手がこまる？

私の城下町ぶちかます

○…インカレのレセプションは、仙台市内の繁華街にある、東一ビルの中で行なわれた。

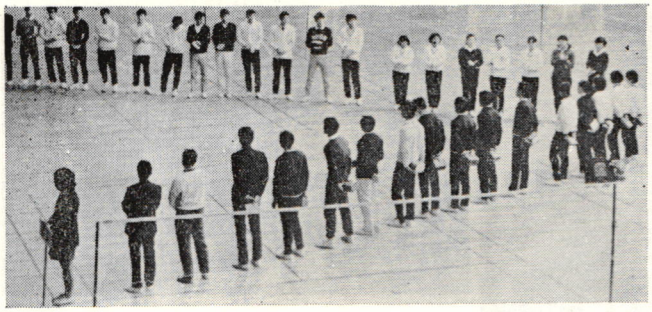
テーブルの上に盛られた料理やビールを横目でにらみながら、まず総会が開かれ、終るやいなや、待ってましたとばかり、ビールの栓がぬかれた。

一杯、二杯と進むにつれ

西軍監督は語る

ダブルスの勝利が今後の自信に

男子監督　三木　喬



西軍の監督を任されて二年目。今年まで数えて20回を誇る当大会も、女子はともかく、こと男子に限り〝東西対抗〟とは名ばかりの、まさに東軍のワンサイドが続き、西軍ばかりでなく学生バドミントン界にとっても誠に遺憾にたえないことでありました。

そこで、なによりも今年はわが西軍が、なにゆえに東軍に劣るのか、はたして技術面だけであろうか、そのことを考えずにはおれませんでした。

まず、考えられるのは、関西全体の選手層の薄さという致命的な問題。次にこれは以前からいわれていたことですが、精神的な弱さ、とくに関東コンプレックスということでした。この解決は一朝一夕にはまいりません。が、少くとも西軍代表選手が一丸となって関東にブチ当る必要があり、そのためには大学という小さなカベを破り、とにかく皆で対関東という意識のもとで練習し、なによりも同じカマのメシを食い、西軍の代表たる連帯意識をもって合宿を積み重ねなければなりませんでした。

そして迎えた東西対抗、結果はいまさらいうまでもなく2―7。しかし、内容的には、近来になく東軍に迫るものであったと、私は自負しております。

なによりも、七年ぶり、圧倒的に劣勢だったダブルスで、植田、岩田組が勝利をもたらしたことは、西軍の今後に明るい光を投げかけてくれました。このことは、続くインカレ団体戦で、何年ぶりかで、ベスト8に関西から2校が残ったことでも証明されたと思っております。

確かに、西日本の大学は、関東の各大学とくらべ、異質のクラブ活動をおくっています。まだ関東に学ぶ点は技術面、精神面など、多数あるでしょう。しかし、関東に追いつけ追い越せという、バドミントンにかける情熱だけは、これからも負けずに持っていくつもりです。

そして、そういう意味での東西対抗が、これからさきも、輝かしい歴史を汚すことなく、永遠に続くことを祈って、また、なによりも当大会に輝かしい一ページを開いて下さった関係諸氏に心から感謝し、筆をおきたいと思います。

光った高坂×石崎の一戦

女子監督　佐藤茂雄

私は最初から5―0を意識して試合に臨んだ。というのも、女子で5点取れば、男子では3―6と負け越しても、総合点で8―6と初優勝、もしくは2―7で負けても7―7の、これもやはり西としては初の引分けに持ち込めたからである。

しかし、坂本がさびしそうだったので、第二ダブルスに起用したのが間違いであった。自分本来のプレーを忘れ、自滅したのが敗因である。同情して出場させるなどというのは、やはりうまくないものである。

一方、使ってもらった選手にしてみれば、それなりに期待に応えるのが当然であろう。自分の持てる力を存分に発揮して敗れた場合は、それでよいではないか。

その中で、ひときわ光ったのが石崎×高坂の試合である。ともに第六回ユ杯の候補者同士の対戦であったが、若い石崎が終始押しまくっての勝利だった。

いずれにしろ、必死の思いで、昨年、実に十年ぶりに関西の女子に優勝をもたらし、女子においては〝西高東低〟としたのもツカの間で、どうやら来年度からは、またまた東軍に軍配があがりそうなけはいである。

本年度のインターハイで目立った選手もごく数名、大学生でも進境いちじるしい選手が少い現在、来年度のユ杯は防衛できようが、次期に対しては、多くの不安を残す匂いを感じた女子東西対抗戦であった。

て、全日本学連委員長のK氏を筆頭に（彼の「私の城下町」を聞いて勇気づけられたのか？）各地区委員長他の歌謡大会がぶちかまされた。

中でも、東北学連のA君演じるところの〝ものまね〟は、そのレパートリーの広さといい八代英太もビックリというノドで、会場の拍手を集めていた。

ウイニングシャトルに感激

○…今大会ではやったのはウイニングシャトル。

これは、なにか東北の習慣のようになっているとか。それには不慣れの関東、関西の選手たち、優勝し、ゆうゆう引き揚げてくると、やおら「ちょっと」と追ってくるラインズマン氏。「これ、ウイニング・シャトルです」

これには日頃、図太い神経でなる草島選手（法大）も感激。パートナーの田所選手とともに大事そうにシャトルをバッグに納めていたのが印象的。優勝選手にとっては、これがカップ以上の〝贈り物〟かもしれない。

女子学生界を展望すれば

柴山追う高坂、高崎
全般にレベル上昇ぎみ



▲単複に天下独占の柴山（前）と高崎

ユ杯をひかえて、女子学生界には、いろんな変化が見られた。独走ぎみだった東大阪短大勢に、関東が追いついてきたばかりでなく、全体的にレベルの伸びが目立った。

全日本学生に念願の優勝を飾った**柴山**（東大阪）は、一回戦から決勝まで、すべてストレート勝ち。昨年の大会では、決して好調といえぬ湯木（現河崎ラケット）に対し、いまひとつ、自分の力を発揮できずに終わったが、今回は、終始、自己のペースで押しまくった。そこに一年間の成長が現われている。

振りかぶりパンチのあるストローク、訓練された抜群のフットワーク、レシーブ、ユ杯合宿などを通じて厚味を増した攻撃力。もう一つ忘れてならないのは、精神面での成長ぶりだ。

母娘二人ぐらしの柴山は、六月まで、まる半年間、母の看病で、ラケットを手の生活から離れた。伸び盛りの時期に、中断を余儀なくされ、それに耐えなければならなかったことは、別の面で、人間の成長をうながす材料になったかもしれない。

柴山、精神的に成長

「うまくいえないが、なにか負けていても、ふしぎに気持ちの余裕が持てるんです。前とちがう…というような」と柴山はいう。〝オリーブちゃん〟といわれ、かぼそいだけだった身体も、たくましくなった。学生選手権後の全日本総合でも、再度、**高坂**（青学）を破り、初めてのベスト入りを果たした。

この高坂は関東学生の優勝者。たまたま、柴山には二度、続けて敗れたが、その実力は決してあなどれない。

うまさが光る高坂

シャトル扱いが丁寧で、正確でコースをよくついたクリアーを持ち、試合展開がうまいプレーヤーだ。凡ミスも少なく〝力〟で押してくるタイプには、そのうまさを、いかんなく発揮するのが特色。

ただ、スナップを生かしていないため、いまひとつのスピードに欠け、これが守りにまわると強いが、大物を倒すだけのキメ手がないことにつながっているようだ。

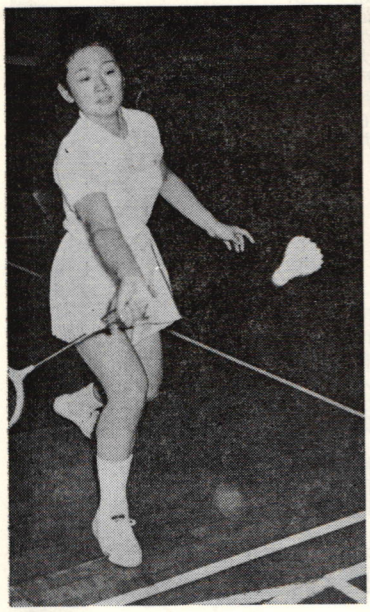
柴山とダブルスを組む**高崎**（東大阪）は、相手が不調だったとはいえ、相沢（ヨネヤマ）をフル・ゲームのすえに破り、柴山とともに準決勝まで進んだ。

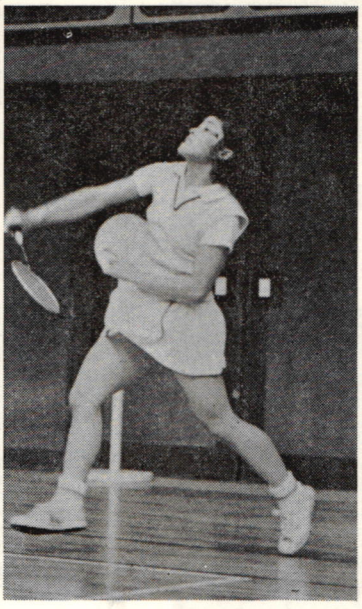
さして大きくない身体（154センチ）を十二分に使い、こきみよい攻撃を展開する。素顔は〝笑い上戸〟だが、せり合いに強く、目下のひそかな目標は〝柴山に追いつけ、追い越せ〟だろう。

高崎こぎみよい攻撃

関西選手権では、僚友の**石崎**にフルゲームで敗れたものの、西日本学生では、練習不足の柴山を11－2、11－3とストレートでくだして優勝した。

この高崎に全日本学生で逆転勝ちして三位を占めたのが、日体大の主将・**小片**。関東学生、東日本学生と、教育実習のために欠場、学生最後のシーズンをタイトル獲得なしで終わってしまった。





▲〝3強〟を追う選手も多士済々——（左）高坂（右）小片に　▼はヤングパワーのダブルス池田・塩崎組

小片、谷沢はあと一歩

しかし、高坂と並ぶ東の実力者であることはまちがいない。本誌でも三須先生が、さきに〈プレーヤーへの手紙〉でとり上げたが、ラッシングの冴え、かなり無理な体制からでも返球できるバネは、定評がある。

主将として日体大の春秋リーグ戦連勝の立て役者となり、全日本選手権では、**谷沢**（日女体大）を破ってベスト8にまで残った。ウェスタンの変則グリップながら、第一線級という珍らしい存在である。

谷沢は、いつもあと一歩でトップの座をにがしている。関東選手権決勝でも高坂に負け、大魚を逸している。ただし、東日本学生では、青学、日体大勢の欠場があったとはいえ、後輩、塩崎にフル・ゲームで勝って優勝をとげた。レシーブ力のある選手、スピードのある選手と対したときにブが悪い。

陣内、新風吹き込む

これらに続く選手としては関東学生ベスト、全日本学生、全日本総合ともにベスト8の**堀川**（日体大三年）があげられる。しかし正直のところ、一年から大物といわれながら、どこか足踏み状態なのは歯がゆい。

堀川とダブルスを組む**陣内**は、これといって、新人の活躍が見られなかった今シーズン、一人で人気を吐いた。

〝パワー〟はないが、新人ばなれしたうまさを持っている。関東学生では準々決勝で高坂にフルゲームと食い下がり、全日本学生では第三シード石崎（東大阪）にストレート勝ちした。体力をつけてくれば将来が楽しみである。

二年生ペアもがんばる

トップを追っての混戦は、関西でも同様だ。前年、故障がちで力を出し切れなかった**大場**（東大阪）は関西選手権で石崎を破り、**坂本**と組んだダブルスにも勝って単複優勝。台頭の足がかりをつくり、西日本学生では石崎とのペアで優勝、全日本学生では関東のクセ者、**塩崎**を破ってベスト8。石崎、大場の向上で、柴山、高崎との距離はぐんぐん縮まっている。

関東勢のダブルスでは全日本学生で柴山・高崎組とフル・ゲームの熱戦を演じた二年生ペア池田・塩崎組（日女体大）を忘れることはできない。

池田の攻め、塩崎の受けの力がほどよく噛み合い、順調な歩み。全日本総合でもベスト4に勝ち上った。

反面「なんでもない、ちょっとしたときにミスを連発する」（先輩の中山＝旧姓高木＝選手）など、まだ安定感に欠ける点がある。一例として、その後の新人戦で後輩の一年生ペアに敗れたりしている。ダブルス理論では定評ある阿部コーチが、どう育てあげるか、興味深い。

（広報・久永　公夫）

第3回女子チャンピオンズ・トーナメント

第三回女子チャンピオンズ・トーナメントは、対デンマーク国際後の二月二十日、東京代々木第二体育館で行なわれる。

ユ杯選手団が総出場の予定です。入場券は一般三百円、中高校生二百円、日本バドミントン協会（東京467・3111内線251）までご連絡を。

日本男子、海外で大活躍

小島が単で二タイトル制す

シンガポール、カナダで国際優勝

女子が三度目のユ杯めざして強化のスタートを切った今シーズン、男子第一線もまた、海外遠征が大活躍した。

〝ミニ全英〟ともいうべきカナダ・スタンピード国際（7月8日―17日カルガリ市、8カ国参加）では小島一平（ヨネヤマ）が単に優勝、小島、栂野尾（同）の複が二位を占めた。

第三回アジア選手権（8月18日―28日、ジャカルタ）では、団体戦（小島、栂野尾、本間）でインドネシアに敗れ、三位に終わったが、個人戦の単で本間順次（トヨタ自工）が準優勝を飾った。

さらにシンガポール・オープン（10月　日―　日）では小島が単を制し、小島、本間組の複は二位。日本は次回トマ杯へ着実な足がかりを築いたといえる。

（左の写真は〝小島、インドネシアを一蹴、王座に〟という大見出しでシンガポール・オープンの模様を報ずる現地の海峡タイムス紙―小島選手提供）



THE STRAITS TIMES MONDAY, OCTOBER 11, 1971

Kojima pumps Indon out for S'pore title

By JOE DORAI

STOCKY Ippei Kojima, five times all-Japan singles badminton champion, last night gained his second major international success when he beat Indonesia's Nunung Mudjianto 15-3 18-16 in the men singles final of the Singapore Open at Guillemard Road.

Kojima used his experience and superior courtcraft to outplay the determined Nunung after 40 hard fought minutes.

Kojima will take a year's rest from badminton. He said: "I have had too much of it. I want to spend more time with my family.

The Japanese ace, who works in a rackets factory, has only been home for a month after their marriage in April.

Kojima said: "I made a promise before coming here that if I win the Open I will retire from the international scene for a year to spend more time with my wife."

'Very confident'

Kojima said: "I was very confident of beating Nunung. He is very good at strokes and net play but lacks power.

"It was only a matter of time before he runs out of steam for me to beat him. I used very little of my smashes."

He said he was not rattled when Nunung forced the decice in the deciding second set. "I think he would have retired half-way if there was a rubber."

Kojima's win was expected. Nunung, who toppled team-mate Sumirat in the semi-finals, could not find an answer to his speed and expertness.

IPPEI KOJIMA

☆シンガポール・オープン

〔シングルス〕

▽三回戦

小島一平（日）（15―7／6―1）D・チャン（I）

小島一平（日）（15―9／6―1）F・ユギア（I）

N・ムジャント（I）（15―13／6―1）本間順次（日）

▽準々決勝

小島一平（日）（15―11／4―1）B・タイエン（T）

▽準決勝

小島一平（日）（15―11／4―1）ジョノ（I）

▽決　勝

小島一平（日）（18―15／16―3）N・ムジャント（I）

〔ダブルス〕

▽二回戦

小島、本間（日）（15―11／15―12）タット、チュンチュン（I）

▽準々決勝

小島、本間（日）（15―11／11―15／11―1）タイエンコ、シュイトヤボルン（T）

▽準決勝

小島、本間（日）（15―4／3―15／15―10／15―8）WC・リー、タイヒェン（I）

▽決　勝

クリスチャン、チャンドラ（I）（15―10／15―8）小島、本間（日）

＝シンガポール「海峡タイムス」誌、ジョー・ドライ記者＝

全日本5連勝の小島が今季二つ目の大きな国際タイトルを手にした。小島の経験と作戦は闘志に燃えるムジャントを全く問題にしなかった。

第一ゲームはわずか18分。小島は長いラリーのすえに、ドロップで相手をほんろう、8―1から12―3と危げなくリードを保った。

第二ゲーム、小島がややペースを落としたので、ムジャントもチョップやネットプレーで活路を開き、6―0から8―4と中盤を先行した。しかし、ステディな小島は、サービスを握ると、この4点目から連続10本を奪って13―8と逆転。ムジャント追いすがり逆に14―13から小島ねばって再び16―15。ここで小島の巧みなさばきが功を奏し、ムジャントは連続3本のミスを犯し、小島が勝利をつかんだ。所要時間22分だった。

団体戦は惜しくも3位

インドネシアに屈すアジア選手権

インドネシア、マレーシアの強さは相変らずだった。なかでもインドネシアの層の厚さ、新鋭の輩出が目立った。団体戦で

は小島、本間ともはハルトノを破ることができずに終わった。

☆**第三回アジア選手権**

〔**団体戦**〕

▽一回戦

日　本5（単4―0　複1―0）0香　港

▽二回戦

日　本5（単4―0　複1―0）0シンガポール

▽準決勝

インドネシア　4―1　日　本

R・ハルトノ（15―12、15―3）本間順次

ムルヤジ（15―10、10―15）小島一平

クリスチャン、チャンドラ　15―13　柑野尾昌一、本間順次

R・ハルトノ（15―10、15―4）小島一平

ムルヤジ（3―15、10―15）本間順次

▽三位決定

日　本　3―2　タイランド

小島一平（15―13、11―15）タイエン

柑野尾昌二（13―15、15―17）ソンチャイ

〔**シングルス**〕

▽一回戦

K・ジョンソン（S）（15―18、15―9）柑野尾昌一

▽準々決勝

小島　一平（15―15、10―13）S・ジョンソン（S）

柑野尾昌二（15―13、11―15）ソンチャイ

▽準決勝

小島　一平（15―11、15―8、乗権15―11）E・コプス（D）

柑野尾昌一（15―12、15―10）S・ジョンソン（S）

▽決　勝

小島　一平（15―4、15―3）S・プリ（D）

〔**ダブルス**〕

▽一回戦

小島　一平（15―6、15―8）ゴンザレス、ループ（メキシコ）

柑野尾昌二

▽準決勝

小島　一平（15―12、15―8）E・コプス、S・プリ（D）

柑野尾昌二

▽決　勝

P・グナラン、タン・アイクハン（M）（15―12、15―9、15―10）小島一平、柑野尾昌一

小島　一平（15―12、15―6）チャバレット、チャンパクパド

柑野尾昌二（17―14、6―7、15―6）タイエン

小島　一平（15―6、15―7）ソンチャイ

〔**シングルス**〕

▽一回戦

ラチマン（M）（15―12、15―12）小島一平（日）

ダルマワン（I）（15―2、15―11）柑野尾昌一（日）

▽準々決勝

本間　順次（15―7、15―6）ハン・スン・キ（韓国）

▽準決勝

本間　順次（15―11、12―15）タイエン（T）

▽決　勝

タン・アイクモン（M）（15―9、15―7）本間　順次（日）

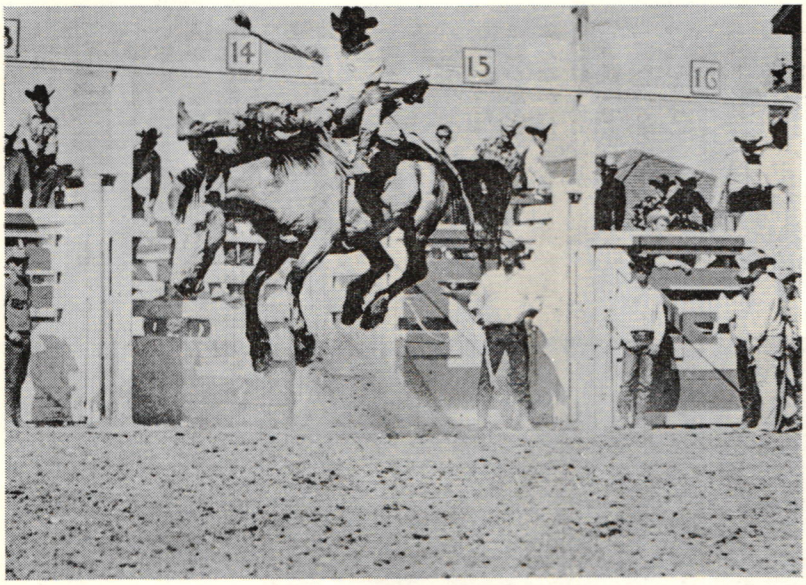
〔**ダブルス**〕

▽準々決勝

チュンチュン、タタット（I）　15―12、15―11　小島一平、柑野尾昌一

欧州勢をがっちり押える

スタンピート（カナダ）大会



カルガリ市の名物，野生の荒馬乗りのショウ

S・ジョンソンも試合の二、三日前から意識的に練習していたのが印象に残る。

準決勝のコプスは体力の限界があるので、我慢強く粘った。おかげで二ゲーム目をとられ〝攻撃は最良の防禦〟をさとった。コプス左足首を痛めファイナル棄権したが、サイドぎりぎりに来る素晴らしてショットにはやはり感心させられた。

決勝はプリがタン・アイクハン（マレーシア）を破っているだけに、警戒した。大接戦で勝った次の試合には自信をもって出てくることが多いためだ。しかしプリは不調だった。ともかく結婚後、初の試合でのタイトルだけにうれしい。精神生活の安定が大切なことを実感した。

ダブルス、欧州勢は上げてくるからやりやすいが、東南アジアはプッシュで早目早目に攻めてくる。決勝の相手は即席ペアだが、グナランは別のパートナーと今年、主要タイトルを独占しており、その鋭いショットに振り回された。

（小島一平）



カットは後藤早苗さん（熊本県菊池郡西合志町須屋（1066）提供）

伸びゆく愛知女性教室

★発足3年，平均年令32歳★

クラブも独立，高校なみの活躍

「愛知県女性バドミントン教室」を紹介いたします。

底辺拡大はママさんから――ということで、日本協会常務理事である伊藤鉱一氏のアイデアで幕をあけ、主婦を対婦を対象としたことが人気を呼んでか、茶の間の話題となり、美容と健康をかねたレクリエーションとして好スタートを切り、はや三年。三面のコートをいっぱいに使って、四十人以上の女性がラリーの猛練習。軽い羽根、軽いラケットのバドミントンとは、しろうとの女性には、うってつけの運動。それでも二時間ぶっ通しの練習は、かなり身体的にもきついだろうと思う。

パンチャーや〝花嫁修業中〟も

教室の平均年齢は、だいたい三十二歳。そのほとんどの人が主婦だが、なかには休み時間を利用して参加する、若いキーパンチャーなどもいる。また、大変喜ばしいことに、花嫁修業中の人で、バドミントンを結納がわりにしたいと張り切っている人もいる。

「私はバドミントンを全く知らなかった。羽根つきぐらいにしか思っていなかったし、こんなにむずかしいものだとは想像もできなかった。」

「手軽にできるのがよい」

「家へ帰ると子供を相手にやっています」

「女の子には最適ですね」

「ストレス解消には最高の運動だわ」

「バドミントンをするようになってからは、気持ちまで若くなり、年頃の子供を持った私には、よい勉強になります」

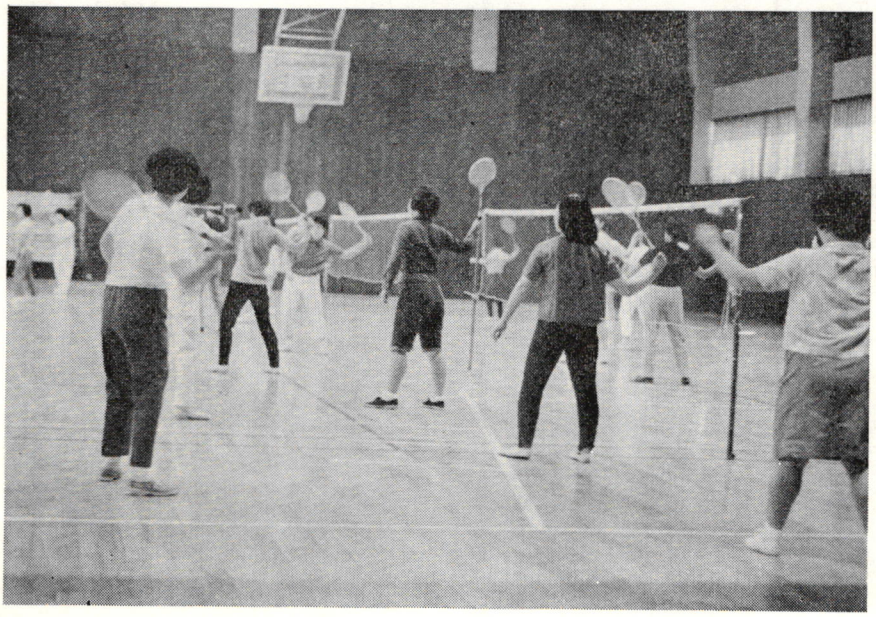
――こんな活発な意見がどしどし出てくる。まったくたのもしいかぎりだ。

教室の練習は月に五回。毎週月、木の朝十時から正午まで二時間ずつ行ない、四週まではハイクリアーを中心とするを基本打ちを練習、最後の週はレクリエーションルールでゲームを行ないます。

また、この教室から独立して発足した「バドミントン・クラブ」があります。

これは部員二十人で、高校時代、なんらかのスポーツを経験した人たち。そして、そのほとんどの人が「教室」が始まった最初からの参加者です。

運営については、自主的なものであり、腕の方は、もう初心者に対して指導できると



ころまで進歩しております。練習は、もちろん「教室」とはことなり、高校生なみの内容で行なっています。

クラブは三菱電機を破る

いままでに県実業団リーグ、市民スポーツ際にも出場してきました。実業団の大会では三部に出場、三菱名古屋を破り、三位入賞を飾りました。

▽教室クラブA2―0教室クラブB▽教室クラブA0―2パロマ▽教室クラブA2―0教室クラブC▽教室クラブA0―2アイシン精機▽教室クラブA2―0三菱電機名古屋

また現在では県協会に登録しいろんな大会にも出場して、大いにバドミントンを楽しんでいます。年度の終りには東海女短大の天野博江先生を迎え、いろいろ指導をしていただくことになっています。

小林洋栄（愛知県協会常務理事、前中部学連委員長）

後藤和子さん（前ユ杯選手）も結婚
〝バドは今後も続けます〟



▲新婚旅行に旅立つカップル

……≪おめでとう≫……

前ユ杯選手の後藤和子さん＝26歳、新潟電話局勤務＝が十一月八日、小野実さんと結婚した。華飾の典は新潟市三社神社で新婦の勤務さきの真島前局長夫妻の媒酌により、盛大に行なわれた。市嶋県協会長、小宮日本協会副理事長、かっての同僚選手である中山（高木）紀子、味謬（高橋）とも子さんら、バドミントン関係者多数が列席、新しいカップルの前途を祝福し合った。

後藤さんは66年、日本がユ杯に初優勝したときのメンバーで、69年の東京大会でもチームの一員だった。この間、アジア大会にも出場、メダリストとなっている。

長崎国体のとき、ヒザを痛め、第一線選手としての舞台からは遠のきかげんだったが、さきの和歌山国体では、新潟県総合優勝の原動力として活躍した。

この間、市協会の理事、県協会の指導委員等として、地元で後進の指導にあたり〝バドミントン王国〟新潟の建設にも、ひと役を果たしている。以下、本誌とのミニ・インタビュー。

――お見合い？　恋愛？

「そうね、お見合いではない、うふふ……」（まいった!!）

――新郎も同じ勤務さきとか「はい。だから週に五日は、出かけるのも、帰るのも、いっしょです」

――ハネムーンは「車で東北へ。二人とも運転できるので」

――今後、バドミントンは「続けたい。彼の理解を得て」

湯浅郵便局はバドミントン国体記念郵便の消印

和歌山県下の主な郵便局はさる十月二十四日から国体を記念して、希望者に記念消印を押印した。このうち、湯浅郵便局（バドミントン会場）の消印の図案は、左記のようなバドミントンのものだった。以上、お伝えしました。

編集部殿へ。

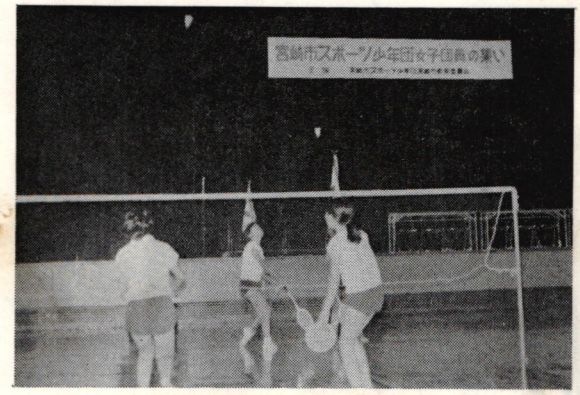
中嶋一雄（京都市中京区西ノ京南円町115）



〝こんな素晴らしいスポーツ，ほかにない〟

宮崎市で　少年団にバドミントン組織化，始まる

みっちりバドミントン練習
市スポーツ少年団　女子団員のつどい開く



宮崎市スポーツ少年団女子団員のつどい（市スポーツ少年団市教委共催）は十九日午前九時半から同市の県体育館であり、百人がバドミントンなどを楽しんだ。

男子団員は、毎年、ソフトボール、剣道大会のほか各種会合があり、活動が盛んになっているが、女子はスポーツ大会などはほとんどなかった。このため手軽にできるスポーツを指導して、女子団員を育成することにしたもので、この日は市バドミントン協会の会員三人が模範競技したあと、会員や市教委の指導でみっちり練習をした。

午後は県警本部音楽隊の演奏を聞いたあと、風船、ボールなどを使った簡単なゲーム、フォークダンスで楽しく過ごした。同少年団と市教委は「団員のほとんどが小学生。スポーツの基礎を教え込んで、自分に合ったスポーツができるようにしたい、将来は選手も出てほしい」と話していた。

現在、東部には73団（男子千二百名、女子五百名）が登録され、年間主要行事として、八月にはソフトボール大会が開催されている。

しかし、これが男子団員にかたより、女子団員は一部の活動を除いてほとんどスポーツ大会もないのが現状である。

一、二年前までは、よく広場や空き地で羽根つきを見かけたが、最近、そういった広場も空地もなく、子供たちが自由に遊べる場所が年々、少くなっている。

私は、こうした子供たちに一つの組織、つまりスポーツ少年団への加入をすすめ、計画的、目的的に活動させる必要を痛感し、機会あるごとに婦人のスポーツ教室、社会体育指導者研究会等に呼びかけ、同時に少年たちに適したスポーツ・レクリエーションとして、バドミントンを取り入れている。

頂点の充実も大切であるが、選手中心の競技会だけでなく、広く地域住民にバドミントンを生活化させることも忘れてはならない。そうした中からこそ、たくさんのクラブが育成され、競技の発展もあると思う。

この「つどい」で初めてラケットを握った百五十名の少女団員、指導者は①こんなにいいスポーツはほかにない②やさしく見えて、いざやってみるとむずかしい③短期間で汗をかく…等の感想を述べ

また、おかあさん方からは「男子と同じように年令別で大会を開催してほしい」という声があった。

今回の催しを機会に、バドミントンの底辺がますます広まり、スポーツ少年団が、続々と結成されることと思う。一部の地区では、さっそく器具を購入し活動をはじめた。

松本行弘（宮崎県協会事務局長）

北から南から

◎ペンフレンド求む！

バドミントンを愛し、いろいろと話し合える高校生の方、文通しましょう。私はバドミントン部で高校一年の女の子です。

荒牧芳子（佐世保西高校、住所＝長崎県佐世保市松瀬町639　〒857―01）

◎バドミントン界をまとめてとじるようなバインダーは別にないのでしょうか。お知らせ下さい。**小林洋栄**（名古屋市瑞穂区田光町三ノ五一、坂野方）

――編集部から＝残念ながらありません。バインダーについては、前々から読者各位の注文がありましたが、正直なところいいものはかなり経費がかさむので、作ったあとで高い。といわれてもこまる

仏教大で10周年記念盛大に祝う

こういう所でも、といっては失礼にあたるが、京都・仏教大学（略称・仏大）でも、バドミントンが盛んに行なわれている。これを知ったのは、たまたま同大学から日本協会にあて部の創立10周年記念行事をやるので、写真等を拝借したいとの申し入れがあったから。

その後、折り返し、感謝の手紙とともに、記念誌と写真が送られてきたので紹介する。仏大の卒業生は、みんなお坊さんになるのだろうか、などと編集部はつまらぬことを考えたが、そのうち、美男、美女で教養高い青年和尚が、信者を集めて境内でバドミントンの集いなど、盛んにやるときが来るかもしれない。想像しただけでも楽しいことだ。（編集部前日）

×　×　×

（前略）さて学園祭には展示のために、大切な御写真を借用いたしまして、本当にありがとうございました。

展示場には8ミリ映写と写真文章によるバドミントンの説明ラケット、シャトルコック、服装「バドミントン界」等を展示して〝眼で見て、頭で知るバドミントン〟をポイントに強調、またアンケートもとったりしてまずまずの成功を収めました。

今年を契機として、二年ごとに展示を行なうことになりました。そのつど、お世話になると思いますが、よろしくお願い申しあげます。

体育館ではバドミントン大会が行なわれました。体育館の天井には、身長ほどもある大きなシャトルコックが飛んでいるのが印象的でした。このシャトルコックが飛ぶようになって三年目です。

バドミントンで戦い疲れた身体をいやす模擬店〝おでんスマッシュ〟も開店三年目の古いおみせになりました。二十名の部員でこれだけのことができましたのは、皆さまのご協力のたまものでございます。部員一同、喜んでおります。（後略）

山本良憲（仏大体育会バドミントン部副将）



▲おでんスマッシュも強烈に売れた



世界選手権者模範試合公開

（岡山県）

掲載が遅れてしまって、申しわけないが、今夏の全国高校総体後の八月八日、舞台を岡山市の新装なった武道館に移し「世界選手権模範試合」が行なわれた。

企画したのは岡山県協会だが、これに教職員連盟、同県の中体連、高体連教育委員会（岡山をふくむ）それに山陽新聞、山陽放送と、多彩な関係団体が後援に加わった。

出場したのは中山（旧・高木）湯木、天野、浦口という前ユ杯のメンバー。男子には堺、小島、栂野尾、関の当代一流の顔ぶれ。

毛利清志岡山県理事長からの連絡によると——

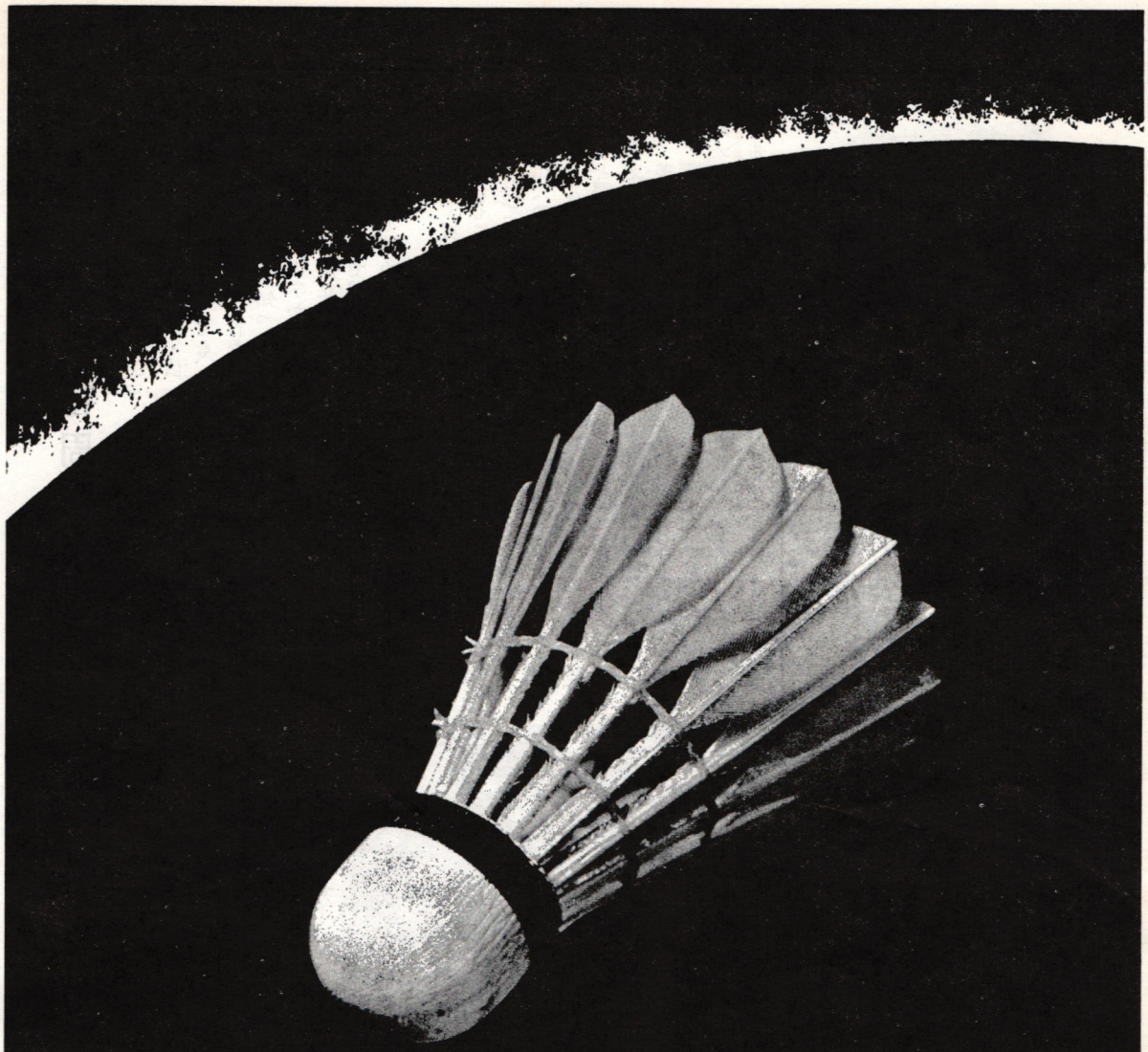
観衆約二千、大盛会でした。小・中・高校生、一般、大学生まで大変な興奮ムード選手も真価を発揮し、観衆を魅了しつくしました。休憩時間にはサイン攻めに会う選手各位、本当にご苦労さま。岡山のレベルアップと競技へのアピールに充分、成功しました。選手、選手派遣や運営に協力いただいた各位に心から御礼申し上げます。

し、手軽に作ると「チャチだ」でもお手上げなので、目下、当方も首をひねっています。どの程度の値段なら、皆さんに喜んでもらえるでしょうか。

◎私ども堀場製作所では今年バドミントン部を設立し、目下、社内で練習に励んでいます。京都実業団連盟に加盟し、京都府下の試合に参加します。（京都市南区吉祥院宮ノ東町二、堀場製作所設計三課、**鈴鹿周正**）

——編集部から＝よかったですね。活動が軌道に乗ったら、ぜひ本誌あて、くわしい話を寄稿して下さい。

◎異動　宮城県協会▽新理事長＝中村隆（塩釜市旭町なかむら、電2・0342）▽事務局＝仙台市一番町三—二—29小島スポーツ内、荘司達治あて（電24・1555）



新しい現代に生きるあなたの
「心」を捉えて離さない
――――サンバタキング――――

サンバタ

さよなら'71

読者とつくるハイライト落穂集

pen friend を求む！
バドミントンを愛し、いろいろと話し合える高校生の方、連絡ましょう
私はバドミントン部で高校一年の女の子です

バドミントン界の皆さんに毎日お仕事の話ばかりで申しわけありません。本日は

100万人の場合

四月五日(月)

一行が

ジャンボ ジェット

「バドミントン界」をまとめてとじる様なバインダーは別にないのでしょうか
お知らせ下さい

名古屋市瑞穂区

最近大阪へ就職しました20才の男子ですが、社会人としてバドミントンをやりたいと思っております。それに付きまして、大阪府バドミントン協会の住所をお知らせ願いたく筆をとりました。大変勝手なこととは思いますが、よろしくお願い申し上げます。

1970.6.17

東京都渋谷区神南1丁目10-1
渋谷宮下体育会館内
日本バドミントン協会
「バドミントン界」
編集部御中

福井局
料金後納
郵便

読者の皆さん、いつもありがとう
よいお年をお迎え下さい　編集部

全員がメダルに輝いたアジア大会のプログラム



Message
from
the Team Manager

SHOICHI KAWABATA

t pleasure to participate in the 6th Asian Games
nd where badminton game is very popular.
ve very enjoyable game with various countries
best to requite Thai's entertainment.
ciate the Thai Olympic Committee's and
ation's cooperation.

Shoichi Kawabata

(SHOICHI KAWABATA)
Team Manager
Japanese Badminton Team

JAPANESE TEAM



Ippei Kojima
Captain



Hiroe Yuki



Mariko Nishio



Etsuko Takenaka



Machiko Aizawa



Junji Honma



Hiroshi Taniguchi



Shoichi Toganoo

さよなら一九七一年——この小誌にもタイミングとスペースがある。だから、載せたいや、是非、載せなくっちゃあ、と思いつつ、つい見送り、ボツになるものもある。だが、全国のバトミントン関係者全員の力でつくっていく、この雑誌、それではもったいない、と考えて、編み出したのが、この写真グラフだ。

昨年末からこの一年間、いよいろあった出来ごとの中から、もう一度、ふり返りたいもの、この機会に、どうしても、一度、お目にかけたいもの、そんな写真を主にして集めてみた。

前ページが示すように、編集部の机はいつも、寄稿の山だ。写真も同じ。名作も迷作もあり、依頼したもの、わざわざ寄せていただいたもの、さまざまである。紙面でいちいち紹介するのは省いたが、ここで、改めて、関係各位に感謝をささげたい。

では、よいお年を。

編集デスク



アジア大会選手団の本誌用帰国座談会

アジア大会、注目の一戦だった湯木とミナルニの試合。このシーンの直後、ミナルニは足のけいれんで転倒ついに棄権した。

二月七日付、四国新聞全日本実業団優勝の関係記事。この大会は記録入手がおそく、ついに本誌で報道できずに終わった。

山本（電）優勝を逸す

女子シングルス 大橋（豊田織機）に苦杯

バドミントン実業団選手権 最終

県立体育館で男女単、30歳以上単、40歳以上単の四種目に熱戦を展開した。

女子単は大橋（豊田織機）が初優勝、県勢の山本（琴電）は準優勝に輝いた。男子単は小島（ヨネヤマラケット）が3連勝、30歳以上単は小山（神奈川県庁）が初優勝、同40歳は浜中（丸善石油松山）が2連勝した。試合終了後、閉会式が行なわれ、団体女子優勝の琴竜などに優勝杯が手渡されて六日間にわたる大会の幕を閉じた。



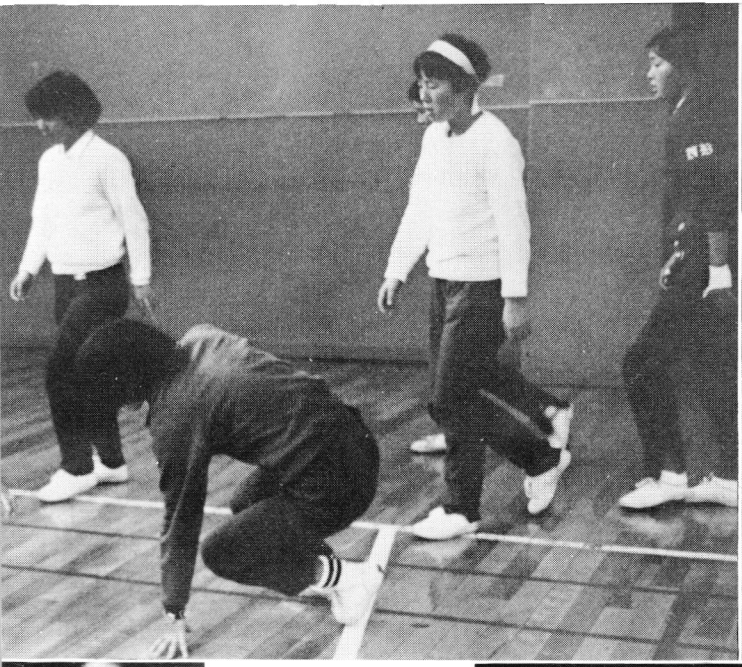
【女子単決勝】山本（琴電）―大橋（豊田織機）第二セット、山本のスマッシュ決まる。（県立体育館）

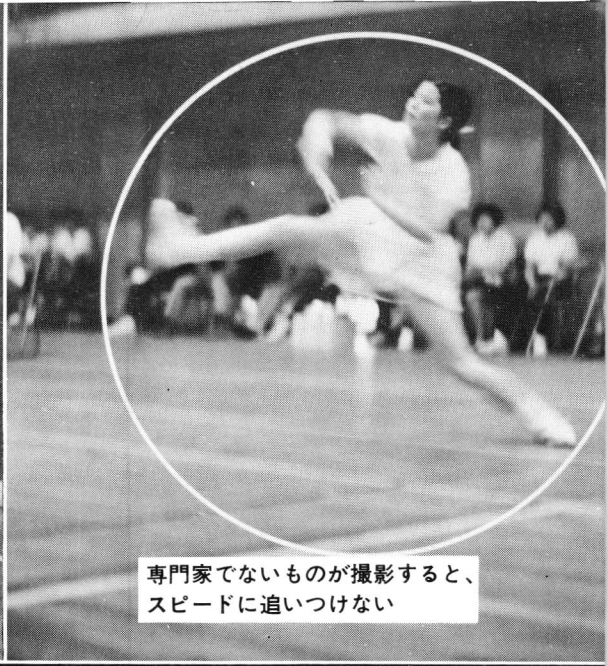
▽40歳以上単準決勝
浜中（丸善石油松山）2 15-12 14-0 越智（住友化学菊本）
千葉（住友化学菊本）2 15-17 15-13 1 後藤（名鉄）
▽同決勝

浜中 2 15-15 11-11 0 千葉
▽単4回戦
【女子】
大橋（豊田織機）2―0 土山（電京）
山本（百十四銀行）2 11-8 4-11 11-6 1 山本（北辰機）
山本（高松琴平電鉄）2 11-11 9-11 0 竹池（トヨ自工）
二宮（二宮電機伊丹）2―0 奈良（電京）
▽同準決勝
大橋 2 6-11 11-11 3-11 1 山本（百十銀行）
山本（高松琴平電鉄）2 11-11 7-11 0 池田



正月恒例の女子チャンピオンズ・トーナメント。魚眼レンズでとらえたスタンド



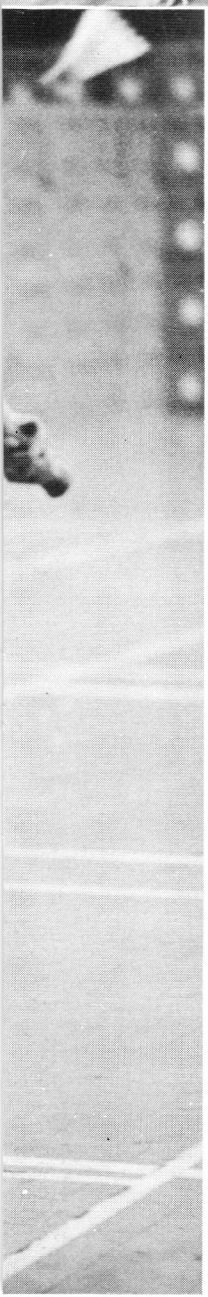


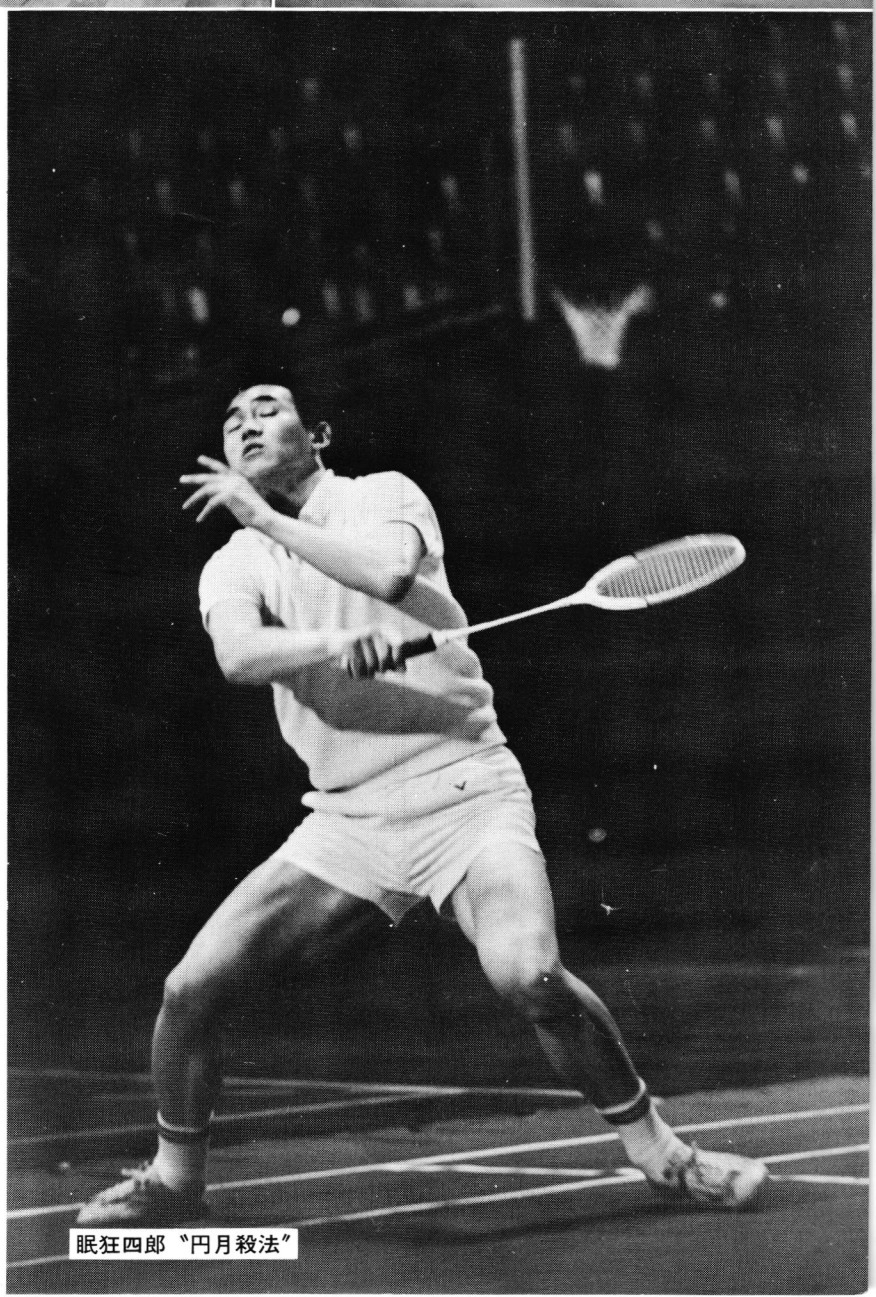
専門家でないものが撮影すると、スピードに追いつけない

バドミントンの撮影は全くむずかしい。しろうとが考えても動きが激しく、焦点とスピードを合わせることが困難だ。時には専門カメラマンでさえ、ファインダーを通して、バドミントンが予想以上のスピーディなスポーツであることを実感する。

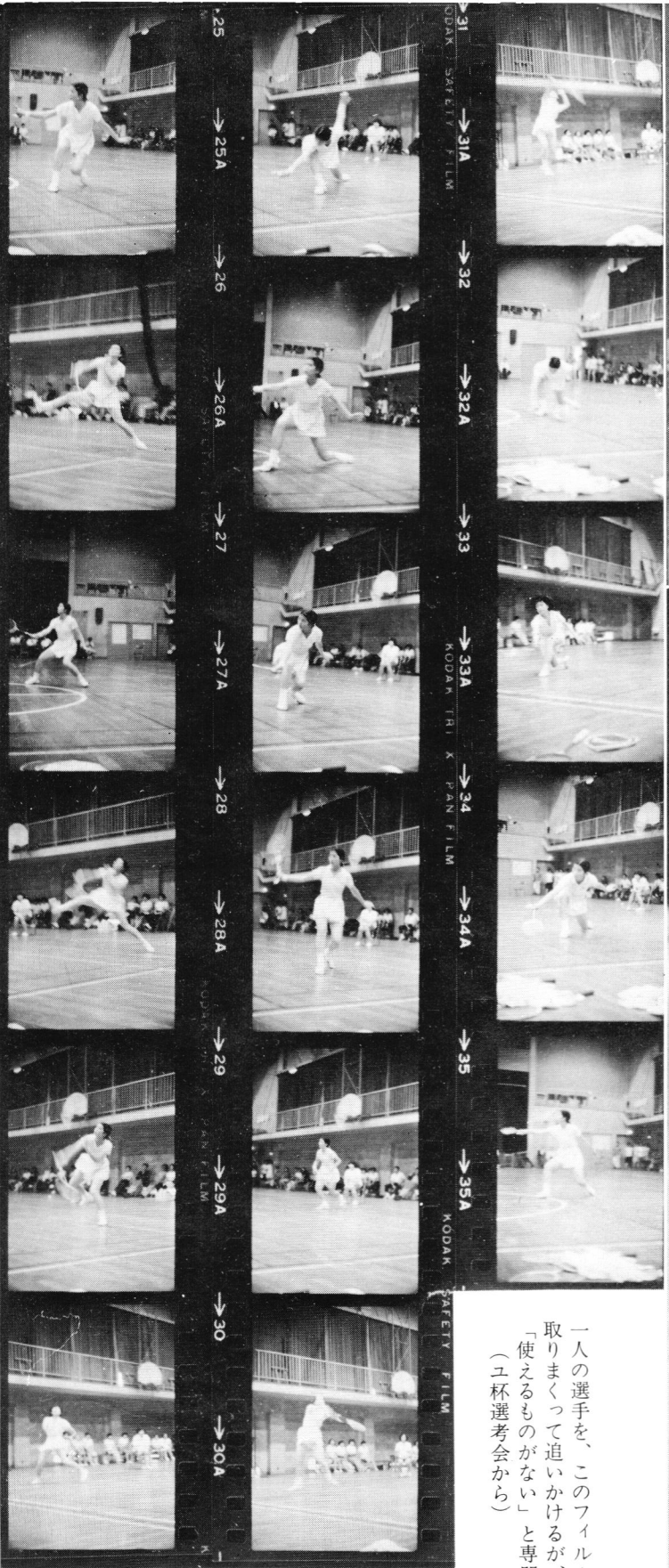
だが、たえずシャッターを切り続ける専門家ならでは、絶対とれない写真も、やはり数多い。

たとえば、ここにあげた〝眠狂四郎〟か〝モダン座頭市〟のような谷口選手（立大）とお面をかぶったフェンシングと見まちがう相沢（ヨネヤマ）しろうとが狙っても決定的にとれぬ一枚だ。

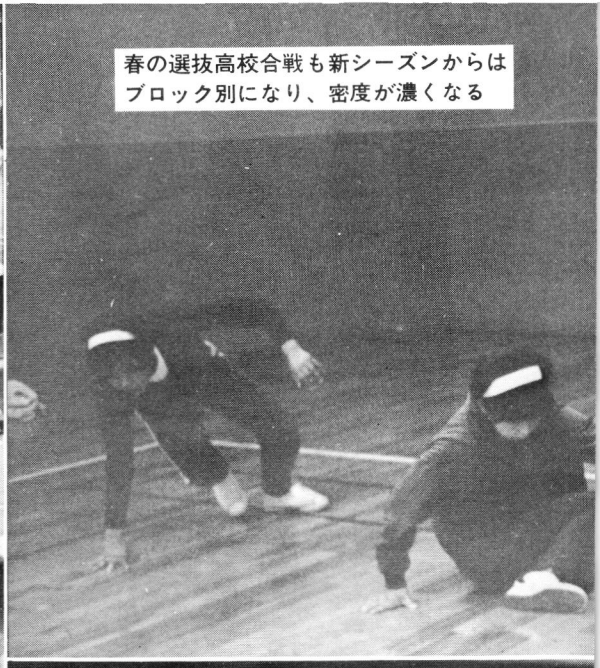




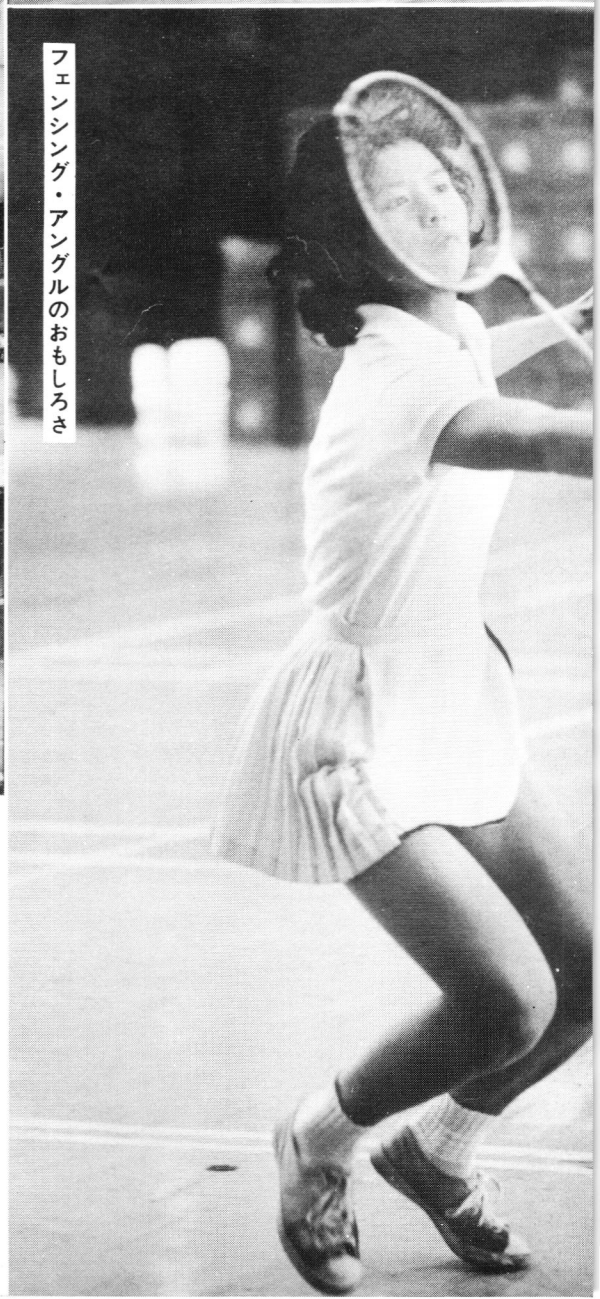
眠狂四郎〝円月殺法〟



一人の選手を、このフィルムの何倍も取りまくって追いかけるが、それでも「使えるものがない」と専門家は嘆く。（ユ杯選考会から）



春の選抜高校合戦も新シーズンからはブロック別になり、密度が濃くなる

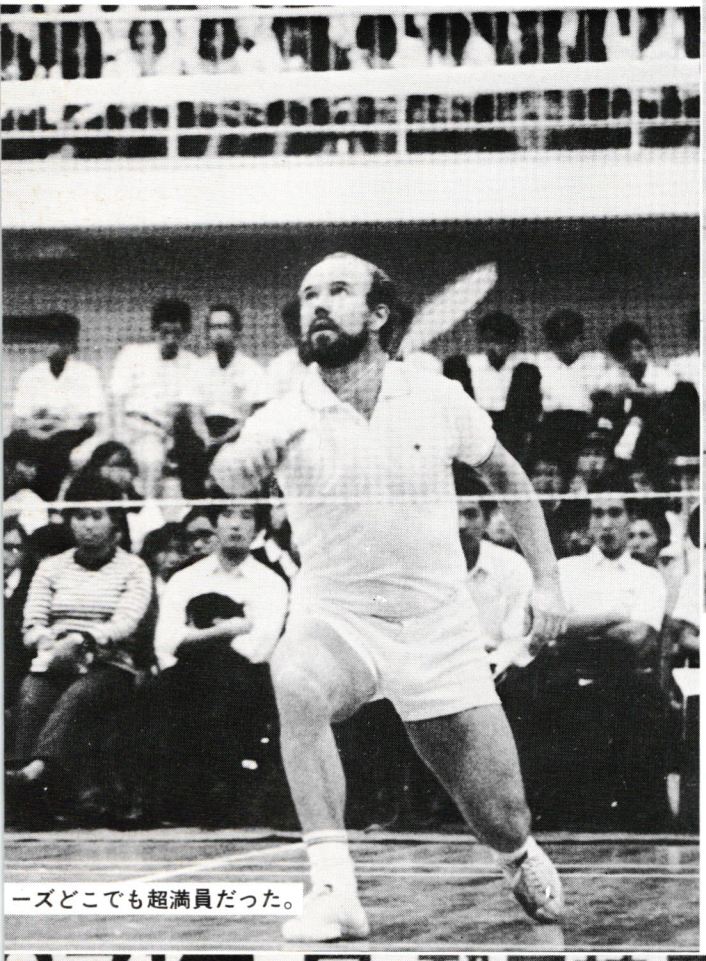


フェンシング・アングルのおもしろさ

〈ある視線〉から



私はだれでしょう
社会人選手権(甲府)から



ーズどこでも超満員だった。

971年 日・韓高校スポーツ交歓競技会

開会式・卓球・バドミントン・ハンドボール・バレーボール・バスケットボール・閉会式



こちら側、右の選手だけがシャトルではなく、相手の次の動きに視線を追っているのに注目したい

Attention Please!



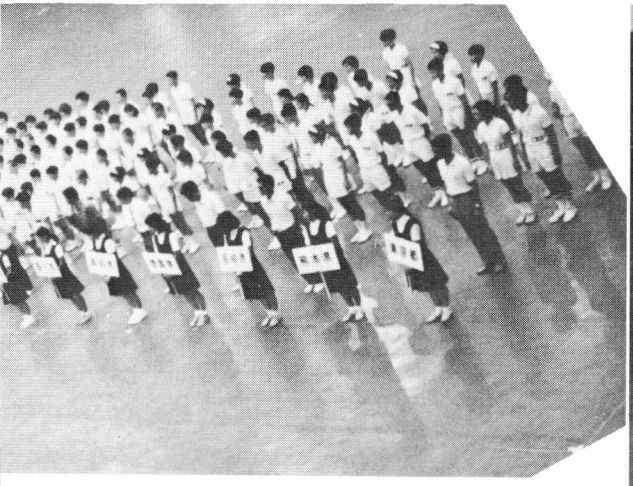
自分が一生見ることのできない自分のうしろ姿（某選手撮影中のスナップ）



世界の老雄コプスと小島、こ



試合の前後には、必ずこうした舞台裏の人々の仕事がある。感謝しよう。



名場面集から

〈高校と中学大会〉



このボリューム感 高校No.1 秋本八代美



さん然と輝くカップを前に熱戦たけなわ中学生大会



秋本とトップをせり合う西尾



なるほど、こんな持ち方もある。無意識のPRになっている。



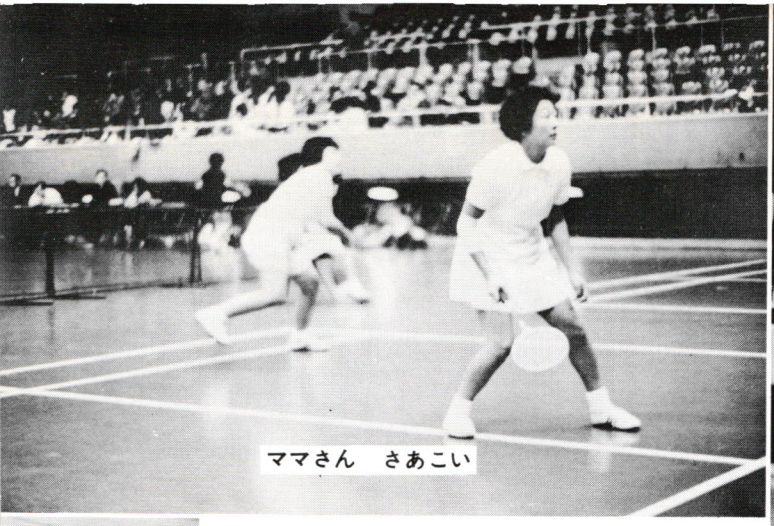
整列　全国中学生大会開会式

〝若い力〟の



ああ、疲れたわ、中学生大会から





ママさん　さあこい



がんばらなくっちゃ
ママさん



さあ、がんばらなくっちゃ。ウーマン・リブの時代、ママさんのスポーツ熱も盛ん（体育の日）

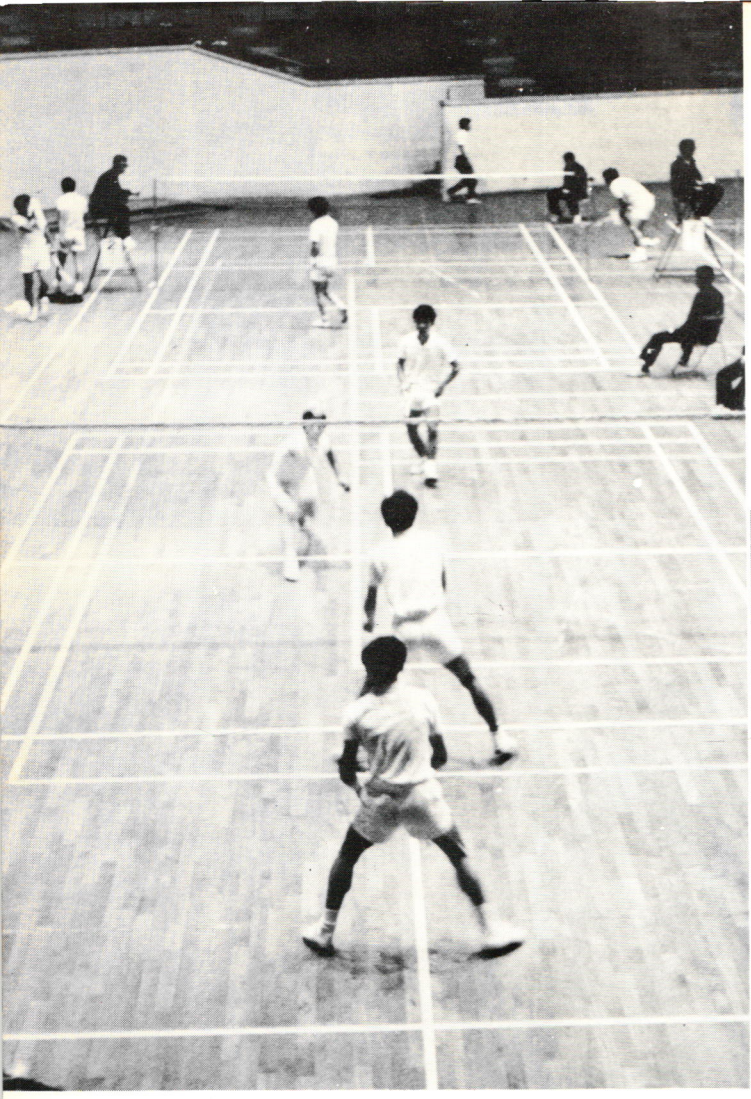
春の全英選手権、ここで史上初女子ダブルスに優勝した





全英
ウエンブレー前

落穂の中の落穂から





2月の第20回全日本実業団選手権
(高松市)今年は一年に二度大会があった



上は中部日本選手権(高岡市)下は関東学生選手権
いずれも読者である協会関係者の提供



さよなら'71日誌

☆新アマ規定が発効

（2月14日の日本協会総会で採択、1月1日付けで発効。よく読んでね）

★高木復調、二代目の女王に

（第2回女子チャンピオンズ・トーナメント1月10日・東京）

☆一年に二度、実業団選手権

（第20回大会が難航のため、45年度ギリギリの46年2月・高松市で、第21回が7月・鹿児島市で）

★学生陣健闘、4－1で圧勝

（第5回社会人・学生対抗、2月2日・東京）

☆スポーツ傷害保険が発足

（文部省、体協などのキモ入りで、3月1日から。みんなも加入して万一に備えよう）

★高木・湯木組4大タイトルを独占

（春の海外遠征－3月から4月－で日本勢大活躍）



☆バドがミュンヘン五輪へ

（3月IBF理事会で、決定が報告された。日本からも代表を送る）

★ユ杯候補団が正式決定

（6月29日選考会、7月5日発表。以来、すでに3度合宿）

☆ユ杯の東京開催決る

（7月18日の日本協会総会で。予定は来年6月6日－11日・東京）

★初の全国中学生選手権開かる

（底辺拡大へ、念願実現。7月26日－28日・東京）

★高木・湯木組、日本スポーツ賞に輝く

（次号参照）

☆全日本総合、栂野尾が初の王座に（次号参照）

★全日本学生、仙台開催

（11月5日－12日、詳細は本号参照）

☆スター選手、続々結婚

（高橋とも子2月28日、小島一平4月29日、高木紀子10月30日、後藤和子11月8日）

★国体で新潟が総合優勝

（10月25日－28日・和歌山県湯浅町）

☆サービスの〝オーバー・ハンド〟規則改正

（10月1日付発効、みんなも注意しよう）

★全日本教職員選手権開催

（8月9日－12日・岡山市）

☆全国高校選手権で女子の四条畷学が完全優勝

（8月1日－7日・善通寺市）

★社会人大会、地元の秋山優勝

（7月23日－25日・甲府市。トップ級選手の不参加が中国問題にからんで疑惑を生んだ）

☆中国との交流へ動き出す

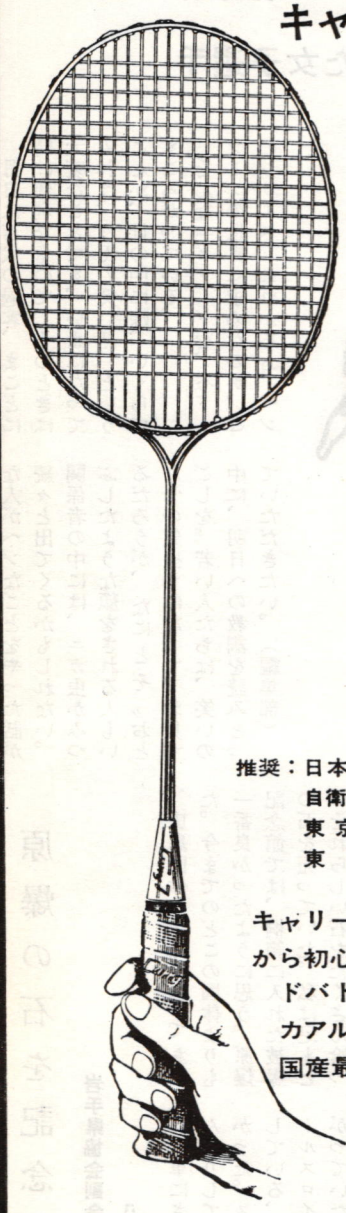
（7月18日の日本協会総会で、日中交流部会設置、部会はのちに「交流すべし」と答申）

WHY, STRONG and LIGHT

カッコイイ銀色のラケット Carry 7

CARLTON
SHUTTLECOCKS

キャリーセブン



¥2,500(フレームのみ)

¥3,000
(ガット、カバー付)

保証期間　6ケ月

折損率 40本 / 10,000本

在東京実業団、高校、
中学校で人気集中!!

姉妹品(格安)

Carry Z

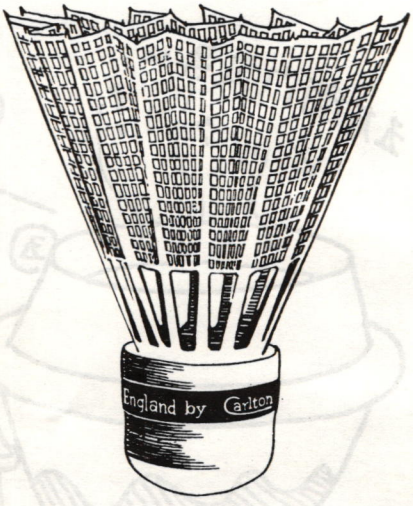
¥2,000(フレームのみ)
¥2,500(ガット、カバー付)

推奨：日本バドミントン協会
自衛隊バドミントン連盟
東京都実業団連盟
東京都中体連

キャリーセブンはチャンピオンから初心者まで、オールラウンドバドミントンラケット、カアルトンラケットに匹敵する国産最高級品です。

あなたも一度、使ってみませんか。

世界最高級カアルトンスチールラケット
3.7(スリーポイントセブン)¥5,800(フレームのみ)
3.9(スリーポイントナイン)¥4,800(フレームのみ)



日本バドミントン協会審査合格品

なぜ!!カアルトンナイロンシヤトルの売上げが増大しつづけるのか？　その秘密は!!

1.耐久力：水鳥シヤトルの約3.5倍
　　陸鳥シヤトルの約6.0倍
2.性　能：水鳥シヤトルとほぼ同じ
3.価　格：インターナショナル(試合球)
　　1個 200円
　　カアルトンクラブ(練習球)
　　1個 150円

註 カレッヂナイロンシヤトルを新らしくカアルトンクラブと変更しました。
カアルトンクラブはカレッヂと全く同一のものです。

Metro Leisure

総発売元

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5－6－4　〒101　電話833－3661(代)

ばどみんとん昔むかし　＜連載　第三回＞

弥次喜多も驚く五衛門風呂騒動

どうすりや，いいの？　逃げ出した女子選手

月日は百代の過客、まことに時は便利なもので、そのときは大変なことでも、いまになってみれば、ほんの笑い話、ということが、世の中には、いくらでもころがっている。

そんなエピソードを、バドミントンの世界に求めたのが、このシリーズ。これからも、ヘンな人がヘンなことをやった話が続々と出てくるかもしれない。関係者の中には、ニガ虫かみつぶしたような顔をされる人もいるだろうが、なにとぞ〝おとな〟の気持ちになって、お見すごしを。若い人たちは、笑いの中に、明日への教訓を読みとっていただきたい。（編集部）



原爆の石を記念に

岩手県協会副会長
八木橋伸夫

広島国体の宿は快適であった。今までのどこの国体よりも一番良かったように思う。原爆記念館では、桐箱に入れた被爆の石を売っていた。私は足もとのそれらしい石をたくさん拾って来た。

家へ帰ってからお土産にと差し出しても、誰も気味悪がってもらってくれず、とうとう縁先にすてた。今なら争って奪い合いになるであろうものを……。

広島市街の復興もいまだしであった。ああした時期に、よくもあのような大会を開いたものと敬服している。名古屋もそうであったが、天皇陛下が徒歩入場されたように記憶している。今は直接スタンドにお着きになるが、むかしの方が参加選手、役員としては親しみがわく。

天皇さまと袖すりあう

今は世の中、万事、民主的というけれども、皇室と国民との接触は、段々にむかしに、それも戦前に逆戻りしつつあるかの感を抱かせられる。

いつの国体だったか、お召し自動車にさわったり、のぞきこんだりしても、だれもとがめなかった。スタンドの入口に駐車している、菊の御紋のついたロールスロイスに、子供達がむらがっていた。

両陛下と全く身体を接してお見送りしたこともあった。今は違う。天皇は、再び雲の上の人となり、新憲法にいうところの象徴でさえ無くなりつつある。

去年の岩手国体の時には、三笠宮妃殿下とお子様お二方が、バド会場にお出になり、森友、川端両氏の説明を聞いておられた。

会長のお約束、実現を

二メートルほど離れた同じ壇上に私も坐っていたが、これなど極めて親しみ深くてよろしい。むかしなら、こんなことを書いただけでも、不敬罪でパクられるところだ。

本田会長は、天皇陛下に世界征覇をお約束申上げたということを聞いている。一日も早く、男子も会長の負託にこたえ、天皇陛下にお喜びいただけるよう

がんばって欲しい。

原爆から天皇と話題が飛躍した。なにしろ思いつくままのむかし話なので、全くのところ、筋も順序も無く恐縮（きょうしく）である。

あっちっち のぶかぶか

さて、広島の宿をほめたが、風呂（ふろ）には弱った。直径二メートル近い五右衛門風呂で底板がプカリと浮いている。端からはいると、板の下にモグリ込んでしまう。五右衛門風呂の経験者がいなかったので、最初は大騒ぎしたものである。

風呂の両側に二人乗っかっておもむろに、同時に足で板を押しおがら、バランスを取ってはいったものだ。一度あがると、また板が浮く。女子選手など、とうとう、はいらない者もいた。ナンデモ経験。まさに、東海道五十三次の〝弥次喜多〟を笑えぬと思い、そしてみずからを笑ったことである。

広島の味噌の味については前、書いた。せっかく携行した郷土味噌ということで、例により、大鍋に豆腐汁を特別に作ってもらった。たちまちたいらげ鍋でお代わり。宿の女中さんを充分に驚かしたものである。

付添のいる 付添先生

そのせいかどうかは別として高校生付き添いの先生が、腹をこわして臥床。試合終了後、逆に生徒を付き添わせるというしだいで〝付き添いのいる付添先生〟としばらく話題をにぎわしたものである。

全英は3月22日から 海外国際大会の日程

新しい国際競技シーズンの主要日程が決まり、IBFから日本に連絡があった。

このうち、日本が恒例の遠征を行なっているデンマーク・オープンは三月十三日から十六日、非公式の世界選手権といわれる全英選手権は三月二十二日からとなっている。続く全米は四月初めだが、全カナダについては、まだ連絡がない。

▽スウェーデン国際（1月7日―9日、ボラス）▽スコットランド・オープン（1月14日―15日、エジンバラ）▽エール・オープン（2月18日―19日、ベルファスト）▽ベルギー国際（2月25日―27日、ブリッセル）▽西独国際（3月4日―5日、オーベルハウゼン）▽デンマーク・オープン（3月13日―16日、コペンハーゲン）▽全英選手権（3月22日―25日、ウエンブレー）▽全米選手権（4月3日―5日、ネブラスカ州オファット）▽欧州選手権（4月12日―15日スウェーデンのカールスクローナ）

カナダ、中国の交流が活発化

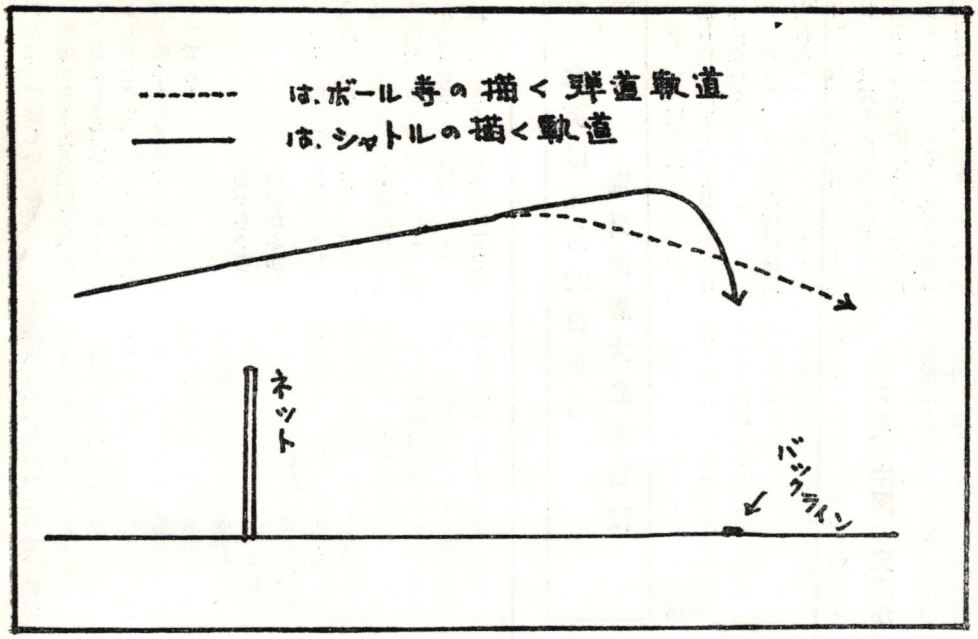
外電によれば、さきごろ中国を訪問したカナダのアマチュア体育連盟会長ジョン・ハニウス氏は「カナダからは新年度中にバスケットとバドミントンが訪中し、中国からは卓球、水泳チームを招くことになろう」と両国の交流計画を語った。

また、オリンピックについて「中国はIOCに復帰する意志を持っており、カナダは精神的協力を頼まれた。しかし〝二つの中国〟を認める現状では復帰しないだろうと述べた。



ココがききたい

初心者の疑問に答える



シャトルはなぜ飛ばない？

―あなたの間違いはここだ―

<短期連載>最終回

秦　浩

前々号、前号と二回にわたって続けてきた、この講座も、今回が最終回。そこでこの号では総まとめ的な観点から話を進めてゆくことにしましょう。

いままでに説明をしてきた問題点、すなわちグリップ、スィング、ステップなどは、いわば部分的なものでしたが、今回はバドミントンのもっと根本的なものについてふれてみたいと思います。

『同じ羽根を打つことでも、追い羽根とバドミントンはまるで異る』ということは以前にも記しました。またその理由についても、追い羽根の羽根と、バドミントンのシャトルは構造的に相違があり、飛行形態も全く違うからである、ということも説明しました。

実は、このシャトルの独得な飛行形体や、独得なスピードの変化を知ることが、初心者にとっては、なによりも大切なことだといえるでしょう。

軌道の急変に慣れよう

というのは、ふつうのボールを扱う競技、たとえば野球（この場合は特にキャツチ・ボールをさす）やバレーボールなどは、そのボールの飛行形体（軌道）は弾道軌道を描き、我々もボールをやりとりするときに、無意識ながら瞬時に軌道の落下点に身体を移動させています。

ところが、バドミントンでシャトルを打ち合うときに、この観念を持っていると、えらい目にあいます。たとえば空振りしたり、フレームに当てたり…。

それはなぜかというと、打ち出されたシャトルコックは、決して他のボール競技のボールと同じような弾道軌道を描かず、極端ないい方をすれば「字型の軌道を描いて飛来するのです。

ですから、キャッチボールをやるようなつもりで受けようと待ち構えていたり、からだを落下点に移動させたりすると、タイミングが狂って、先きほどのような現象をひき起してしまうわけです。

つぎに、みなさんがまどわされるのは、シャトルの独得なスピードの変化でしょう。バドミントンでスマッシュの際に打ち出される速度は、約250キロといわれ、これはテニスのスマッシュはもちろん、江夏の快速球をはるかにしのぎ、実に新幹線なみのスピードです。

しかし、この超スピードで打ち出されたシャトルも、相手コートにはいり、バックライン近くに飛来すると、速力は急激に

止まり、逆に時速0となり、引力の原理に従って垂直に落ちてくるのです。

つまり、このスピードの変化が、「字軌道となって表われるのですが、このように250キロから0キロと、幅の広い、スピードの変化と、シャトルの幾何学的な構造から生じる微妙な動き、これがバドミントンのデリケートな魅力だともいわれるわけです。

素振りで練習しよう

ですからバドミントンに入門し、マスターしていくには、このシャトルのスピードと動きを体得することがまず第一関門。ではこれらを体得する方法はというと、なんといっても、数多く打つこと、そしてハダで見きわめること以外にはないようです。それといまひとつ、他人の試合なり、ストロークをよくみることが大事なことです。

相撲で型を固める、野球でバッティングフォームを固める、ということは非常に重要なことです。常に安定したフォームを保つためには、型を固めなくてはなりません。そのため鏡に向ってシャドウ・スィングをしたり、素振り、申し合いけいこ、などをするわけです。

バドミントンも同じように、一定のコントロールをもったクリヤーを打つには、安定したストロークが要求されます。そこで浮び上ってくるのが素振りの重要性です。

これはコートに入らなくても、だれでも、どこでも、いくらでもできるわけですから、自分がその気にさえなればよいのです（いままでに解説してきた部分について確認し、納得しながら）。

初心者は、とかくコートの中にはいってあい対し、シャトルを打ち合うことにとらわれがちですが、コート以外でも、十分に練習できる素振りは、単調なようですが、是非とも実行したいものです。

この練習は、できれば、やはり鏡の前で、ゆっくりと足の位置、腕の曲がりぐあい、打点（想像上の）を確かめながらやってみることです。素振りだといっても、ポイントを確認しないで、自分勝手にやったのでは、なんの意味もありません。

鏡の前が不可能なら、木の技の先き、タンスの上の人形の頭、なんでもよい、仮想打点となる点を決めて振ってみることです。カベにチョークで印をつけたり、高いところからシャトルをぶら下げるのも一方法です。

第一戦選手は助言する

それでは、最後をしめくくる意味で、トップ・プレーヤーの初心者へのアドバイスを聞いてみましょう。

○中山（旧姓高木）紀子選手

私が初心者を指導するとき、まず注意するのは、ラケットのまん中にシャトルを当てるように心がけなさい、ということ。それから、なるたけ高い位置で、しかも、からだよりやや前方でフライトを捕えなさい、ということですね。

そして、忘れてならないのが、シャトルの球速の微妙な変化と、それに対するタイミングのとり方を会得しなければなりませんね。初心者は往々にして球速の変化についてゆけずに、ミスをする場合が多いように見受けられますので。

○堺　栄一選手

私の場合、初心者には、グリップがどうの、などということはあまり注意しません。むしろ、なんでもよいから羽根を打つということに慣れるべきだと思います。

それから除々にシャトルを捕える位置だとか、スイングだとかいう点を指摘していった方が効果的ではないかと思います。

また、ストロークを打ち合う相手も、当初はコンスタントに同じ所へ、打ちやすいタマを打ち返してくれる、上手な人を相手とすべきだと思います。



少年少女編

かたよればムダな力を消耗

続ホーム・ポジションを考える

なぜ左右のゆさぶりに弱いか

日本協会競技力向上委員長　伊藤基記

この前には、ホーム・ポジションをなるべく前方におくことの必要を強調した。今回は、前回の前後に対照して、左右のゆさぶりに応ずるホーム・ポジションの問題をとりあげる。

日本の選手、なかんずく第二線級以下の選手は、左右のゆさぶりに弱いといわれている。理由はいろいろあるだろうが、私はコート数の不足からくる、片面練習にその主因をおきたい。

二人でコートを独占する時間が、試合以外のときに持てないために、大部分のフライトをフォア・ハンドで処理するときのくせが、フット・ワークや、ストロークの構えにこびりついてしまうことになる。

当分の間、バック・ハンドの必要を痛感しないまま、時が流れる。オール・コートで左右のゆさぶり合いすることになれば、どうしても、バック・ハンドにフォアと同等のウェイトがかかる。

そこでホームも左にかたよっていることの不利をさとりフォアと同様に、いや、それ以上に最初からバック・ハンドに取りくむべきであると思い知らさせることのないまま時が流れるから、無理なフォア・ハンドのお余りのフライトを、これも幼稚な、力不足のバックハンドがもらいうけることになり、うまくゆくはずがない。

こういう風にして育った選手のホームはおおむね、図の下部のように左にかたよってくる。

図の上部はホームが中央に正しくある場合を示し、こういう状態であれば、ホームから、各コートの四隅に移動するのに平均して1の力が必要であるとしよう。下部のようにホームが左にかたよれば、左前、左後には確かに近く、距離的には六割が七割ですむ。

しかし結局は1の力を必要とする。左側が近いから、右側は遠くなる。1・3倍の距離は、結局2倍の力を要求する。はんぱなフット・ワークは打球の構えにうまく結びつかないからである。

ホームが正しく中央にあれば、一通り、四隅に出動するのに、4の力ですむところを、バック・ハンドを守るために少し左側にかたよらせたことが主因となって、同じひと通りの出動に少なくとも6の力すなわち、1・5倍の力を消耗させられることになる。

実際には打球姿勢や、フット・ワークそのものの安定や、リズムのこともあるので、それ以上の疲労を強いられることになる。

シングルスのゲームで、1ゲームは勝ちながら、2ゲームの後半に追いつかれて、ファイナル・ゲームで、惨敗する選手にこのタイプの選手が多い。一、二回戦は通りすぎても、三、四回戦と疲労が激しく、最後までたどりつかない。

中央に位置して、四隅にまんべんなく出動しなければ、体力的に苦しくなる広さに、バドミントン・コートはつくってあると見てよい。全部、フォアに回わして処理できるようには、もともとつくられていないことを、改めてかみしめる必要がある。

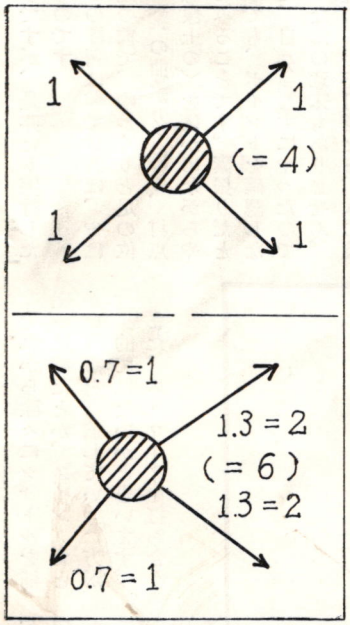
従って、将来、名手たらんとするものは、目前の試合成績にだけこだわらず、左右平等に、いや、むしろ、バックの方に力をよけいいれるくらいのつもりで、基礎や、基本を固めなければならない。

結局はバック・ハンドでとどめをさされることを繰り返しながら、精こりもなく、バック・ハンドを軽視した基本練習をくり返している。

最初、ゲームにとりくむとき、フォアが打てれば、なんとか、簡易なものと取り組めるところから、ついつい、フォア・オンリーに流されてしまう。

コートがあいているときに、つとめて、オール・コートのドライブなど、左右のゆさぶり合いができるような練習を多用するようおすすめする。

なんでもかでも、例えば特にドライブやスマッシュのリターン、でさらに各種ストローク、フォア・ハンドだけで無理に処理しているプレーヤーをよく見かける。これではまず将来から見放されていると考えてよい。あなたがた自身は、あなたの周囲はどうであろうか。



相手の〝前〟を征服しよう

考えたいパーセンテージ・バドミントン

有効な垂直カット、ドロップ

中高校編

日本協技力向上委員　佐藤茂雄

最近のバドミントンを見ていると、どの選手にも決定打が少いことが目につく。

見方を変えれば、それだけ技術が向上したといえるのだが、実力が迫仲している試合では、いわゆる〝決めダマ〟を持っているか否かが、ポイントに結びつくかどうかの、大切なカギになってくる。

だから現在のように技術面でも、ある程度レベルが高くなってくると、やはり〝考えるバドミントン〟を、他にさきがけて実行しなければいけない。

そこで、私は次の提案を行ないたい。

すなわち〈敵の〝前〟を征服する〉ことである。

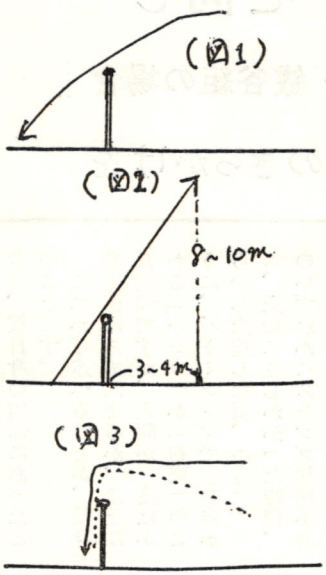
敵の〝前〟つまりフロント・コートを征服できれば、ポイントをあげる率が非常に高く、かつ容易になると確信する。

私は、男女を問わず全日本級プレーヤーのほとんどを観戦したが、私の考えているカットをやっている選手は、ほんの一、二名しかいないように思う。

従来のような打法のカットでは、バードが流れ、距離がのびてしまう（**図1**）これでは、フット・ワークのよい選手には、簡単にレシーブされてしまう。

そこで、たとえレシーブされても、次のタマで決定的ポイントをモノにするには、**極論かもしれないが、ネットの最も近い所に垂直に落とす**ことが要求されてくる。

最近は技術向上もいちぢるしいし、しかもシャトルは腰の強い水鳥球を使うので、いくらスマッシュを連打してみたところで、決定的ダウンを与えることがむずかしくなってきた。そこで、繰り返すが、相手のネット前を制することが要求されるのである。



このようなフライトであれば、もし、相手がよいフット・ワークを持ち、カンが鋭くとも、上へ高々とレシーブするほか手がなく、結局、絶対的に近いダメージを受けることになる。

すなわち、よほど高くシャトルをあげないことには、落下点が短く、浅くなってしまうので次はスマッシュ等でポイントを奪われてしまう（**図2**）

（私の実験では、千本レシーブテストの結果、8メートルから10メートルぐらい上へ返球して、落下点は90%、ネットから3～4メートル以内だった）

また反面、うまくレシーブしても、ネットタッチやバッシングなど、フォルトになる危険率が非常に高くなってくる。従って、ネット前に落とされた側の選手にとっての安全策は、当然、ヘアピンまたはダッシュしてのネット上での返球以外は考えられなくなる。

ヘアピンで返球するにしても後方に追い込まれていて、突然ネット前に垂直に落とされた場合には、心理的にどうしても、上へ強くあげてのレシーブになりがちである。さらにカット（攻撃側）する選手にしてみれば、ストロークと同時に、思い切ってネット前へ走っていけばよい。そこでラケットをあげて構えていれば、いわばレシーバーは窮地に追い込まれている状態だけに、ヘアピンで切り返す余裕はまったくなくなってしまう。よしんばヘアピンを打っても、相手に奥深くヘアプッシュされるのがオチだろう。

これからのバドミントンは従来の単なる走らせ合い、スタミナの消耗のさせ合いから、より前進した、効率の高い、いわゆる〝パーセンテージ・バドミントン〟すなわちエネルギー消耗度を低くさせた方向へ進まなければ、よりすぐれた技術の向上には結びつかないように思われる。

〝前を征服する〟ことこそ〝パーセンテージ・バドミントン〟であると信じて疑わない。

順序が前後したが、このようなカットをやるには、これまでのようなスイングではなく、ややホップぎみにするかもしくは水平にスイングするよう配慮しなければならない（**図3**）

従来の高い打点でのスイングでは角度はつくが、落下点ではタマ足が長くなるので、気をつけよう。

もちろん、いつの場合にもカット、ドロップは、すべて垂直のものばかりを使うことをすすめるものではない。緩急自在に使い分けて、ゲーム展開をしていかねばならぬことは言をまたない。（東大阪短大監督）

180と177のコンビ

大型ダブルスのモデル選手として、180センチの山田秀雄選手と、177センチの銭谷欽治選手（中大）に登場してもらいましたので、両選手の高校時代から考察することにします。

山田選手は中学時代に友達に誘われてクラブにはいり、新潟商業高校三年の総合体育大会では、ダブルスで準優勝をなし遂げております。

対照的に銭谷選手は、中学時代の野球部の先輩が、高校でバド部に籍をおいていたので、その先輩の勧めにより、石川県大聖寺高校で、始めてシャトルを打ったのですが、三年生の総体では見事にシングルスで準優勝をしております。

ダブルスについて書くことになっておりますが、一名づつ分析しますので、順序としてシングルスから説明をします。

両選手とも、どちらかといえばシングルス・プレーヤーであり、長身者共通の下半身が弱いこと、小廻りが利かない点があります。

小廻りが利かないことの意味は、トラックと小型車と比較すると、よく分って頂けると思います。一定の範囲内では、大型トラックは動作が鈍く、むしろ小型車の方が敏捷な動きが見られます。

バドミントンは一定の範囲内（コート）で動作を行ないますが、車と違って人間が動き廻るので、研究と練習次第では機敏な動作ができます。始めのうちは〝ムダな動き〟が多くても、かまいませんから、ダブルスもシングルスも、動き廻ることを、心がけてもらいたいものです。

より高い打点での強打

山田選手の高校時代における練習量は、週に五日間で、一日三時間あり、技術的な目標は「より高い打点での強打」でしたので、ダブルスにおけるラッシングは、高校生ばなれしておりました。クラブにおけるトレーニングは、階段の昇り降りや、ダッシュが主で、個人的には、砂浜でのランニングをやっていたそうです。

上背にも恵まれ、コーチ陣も揃い、そのうえ、総体での優勝経験もある名門校で、なにひとつ不自由ない環境でプレーができた山田選手にとってのつまづきは、彼自身の内部にあったとのことです。

これから述べることが、長身者全部にあてはまるか、はなはだ疑問ですが、人間が一度はかかる「ハシカ」か「初恋」のように、バドミントンでも初歩から少し上達した頃、中級クラス、上級にさしかかった時期、のいずれかにスランプ状態があります。

山田選手は過去のいやな思い出にもかかわらず、これからのプレーヤーに参考になればいいのですがと、彼自身の体験を話してくれましたので要約してみました。

スランプは三年生になったときに始まりました。自分ではピークが春休みにあったことから、短期間で抜け出せると考えていたのですが、なにをやってもダメで、日数がたつにつれて一層ひどくなり、これがスランプであると思い込んでしまいました。

しかしながら、すぐ抜け切れるのだと考え直し、練習を続けましたが、しだいにスランプ状態が悪い方に進行、そのままで総体の県予選に出場、自分自身では信じられない完敗でした。

あんなにリードしていたのに……この試合で僕がバドミントンを、やる気力を失いつつあったとき、活を入れてくれたのが先輩でした。スランプ状態では、なんにも面倒をみてくれなかったのに、僕をひっぱたくなんて、ひどすぎると瞬間、思いました。

甘かった取り組み方を反省

自然と涙が出てきてしまいましたが、なぐられたくやしさの涙でなく、自分自身の考え方が甘かったうえ、暗中模索であった僕に〝きっかけ〟を与えてくれたうれし涙でした。

やっと精神的にも立ち直り、総体一週間前ごろ長かったスランプから抜け出せ、短期間でしたが充実した練習をして、総体に臨むことができました。

団体戦は順調に決勝進出しましたが、オーダーが渡されたとき「君が勝てば優勝できる」といわれ、自分でもやる気十分でした。

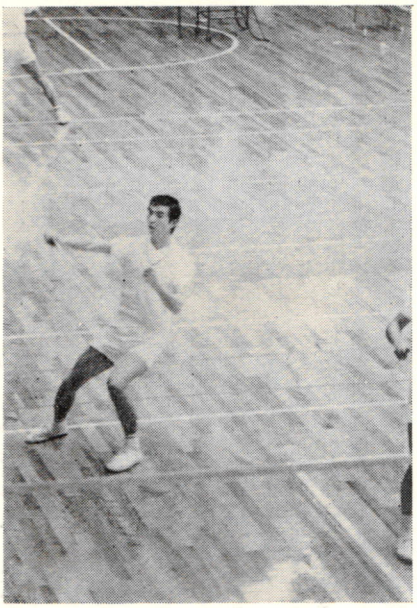
どたんばで先行した不安感

第3シングルスの同僚がリードしている試合を横目で見つ

〝スランプ〟は〝はしか〟と同じ

距離⑪ 大型ダブルスの考察　山田・銭谷組の場合

山田選手―先輩になぐられ，脱出のきっかけを



▲長身を利した山田選手のプレー

つ、第32シングルスの僕は、3ゲームのセッティングに全力をあげ戦っていましたが、内心では相手が一発目にスマッシュを打ってくるのではないかと、不安な気持が先行しておりました。

実際問題、自分に一番不利なスマッシュ攻撃を受け、しだいにレシーブ・ミスが多くなり、落着きを失ってしまい、過去のいろいろのできごとが目の前に現われてきました。

そのとき、ふとスランプのことを考えてしまいました〝あの時もリードしていて負けたっけ〟そんなことを思い浮べているうちに、試合は終わってしまいました。

自分の負けたくやしさを、どこにぶつけたらいいのか、なさけない気持で涙も出ないありさまでした。

六年目で県下の初優勝飾る

これらの経験が、次の段階に昇る地固めになったので、国体の県予選ではダブルス・シングルスとも、自分のプレーができ、試合でやってみたことのないネットクロスも、無意識にてしまったほど調子が最高、バドミントンを始めて六年目で、県下シングルスの部で、優勝しました。

国体に行かれなかった心残りはありますが、自分で迷わずプレーができたことは、一番嬉しく感じました。……

（全日本学生連盟・副委員長　保坂　佳人）

73人が合格、関東学生の三級審判検定会

「三級公認審判検定会」

学生を対象とした三級公認審判検定会（主催。東京都バドミントン協会、協賛・関東学生バドミントン連盟）が十一月二、三日の両日、岸記念体育館で昨年の倍近い学生が参加開催された。

講師としては、小泉伸（日本協会資格審査委員）、伊藤澄（東京都協会資格審査委員）、山本洋彦（日本協会審判委員）の三氏に来ていただき、有意義な価値ある二日間であった。

第一日は夕方六時から、歴史、規則書を使っての競技規則、大会運営規定、審判用語など一つ一つの説明を受け、先生方の実際の経験をもとにした、個々の具体的な例を教えられ、頭にたたきこんだ。

そのあと質問にはいり、先生方も汗をふきながら、学生の熱心な質問に非常に解りやすく答えてくれた。第二日目は、午前中審判の実技試験、午後から筆記試験を受験者は必死に問題とにらめっこをしていた。

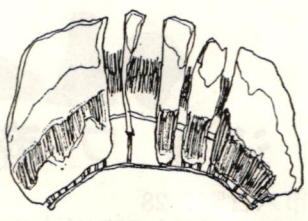
結果は昨年を上回る七十三名の学生が、晴れの三級審判合格者に決し、伊藤澄先生は「例年になく好成績で、学生達は非常に熱心に受講していた」といっておられた。

現在、リーグ戦などの審判は下級生が、ほとんど行なっている状態で、特に今度の秋季リーグ戦では、ルールを知らないためムダな時間を費やしたり、主審が判定をまちがえたため、トラブルがおこったりした（途中から各大学の責任者を呼んで、徹底的に注意し、上級生及び三級審判資格を持っている人に主審をやらせたが……）。

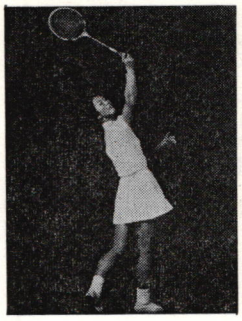
このようなことをなくすため、より多くの学生陣が審判の資格を持ち、正しい知識と判断を持って、審判にあたってもらいたい。プレーがいくら上手になっても、ルールを知らないでは、名プレイヤーといえないのではないだろうか。

ところで、うれしく思ったのは、某大学のある学生は、バドミントン部に所属しておらず協会の登録もしてないので、講習会だけでも受けさせて欲しいと、意欲的な姿勢を見せて、関係者を喜ばせたことだ。

来年は前期、後期の二回に分けて、検定会を開きたいと思うが、試合の準備、検定会の会場、先生方の都合等の問題などで、年二回開催するのは、なかなか困難の状態である。しかし参加者は、年々、増えているので、年二回の開催を出来るだけ実現させるよう努力するつもりでいる。



《表　紙》



柴山きよ子

一般には〈きよ子〉と書かれているが、本人が手紙など送ってくるときは〈きよこ〉と最後がカナになっている。どっちが本当なのか。

本誌〝百万人のバドミントン上達法・中高校編〟を担当されている東大阪短大・佐藤茂雄先生の秘蔵ッ子。ニックネームが〝オリーブちゃん〟。ポパイのマンガの女主人公からの連想でつけられたらしい。

事実、ユ杯候補チームの中では、身長が相沢・竹中と1センチ違いの162で、かなりの大型だが、体重は48キロ（さる六月末の記入）と、こちらは最下位。だが、そのムチのような身体のバネとパワーがこれまた大変なもの。

東大阪高三年のとき、全国高校で単複に優勝、団体戦でも主役。〝三冠王〟とさわがれた。以来二年。全日本学生に優勝し目下、夢までみたユ杯のメンバーに加えられ、精進している。

全日本総合の豪華プロさしあげます

46年度の全日本総合選手権大会（次号に詳報します）の豪華なプログラムを、本誌愛読者に無料進呈いたします。

このプログラムは、前年度から本誌でおなじみの編集広報スタッフが制作したもの。特色として興味ある読みもの年間主要大会記録、歴代記録がダイジェストされていること主力男女選手の写真と抄歴がついていること――があげられ、ほかにも「役員関係あいさつがない（会長あいさつ一つだけ）し、役員一覧表なども省かれ、プログラムというものの既成概念のワクを越えている。」と、好評をいただいております。

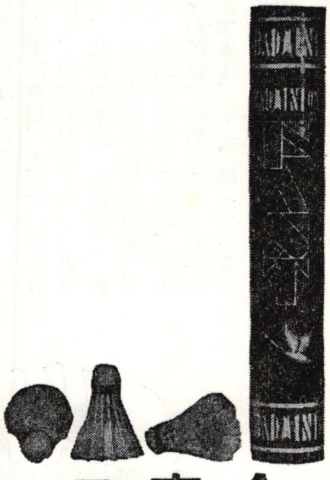
大会をジカにごらんになれなかった地方読者の方々に、大会のにおいだけでも味っていただけば幸いです。別刷で全記録詳細も添付しますので、プロに記入して保存して下さい。なお、プロは無料ですが、送料として切手50円分をお送り下さい。

編集室

○…あわただしく、また一年が終わり、半年後には、再度、東京でユ杯を迎えることになった。本誌は前のユ杯終了と同時にスタートしたから、これで二年半、生きてきたことになる。いつまで続く…といわれながらとにかく今日あるは、全国の皆様のおかげ。ありがとう。

○…印刷所の関係などで大幅に〝ダイヤ〟が乱れていたが、あと二、三日のうちに急ぎ平常に戻る予定。あしからず、ご諒解を。本号グラフは多少〝遊び〟のきみがあったが、新年号ではふたたび、全日本総合で撮影した試合の連続写真を掲載します。ご期待下さい。

【バドミントン界】第28号
昭和46年11月25日　印刷
昭和46年12月1日　当行
編集兼発処人　川端昇市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六八・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

水鳥　検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー

ファスト印シャトル
コック製造発売元
有限会社　ジャワ商会
山形市六日町7 28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

遠藤（日大）単複を制す

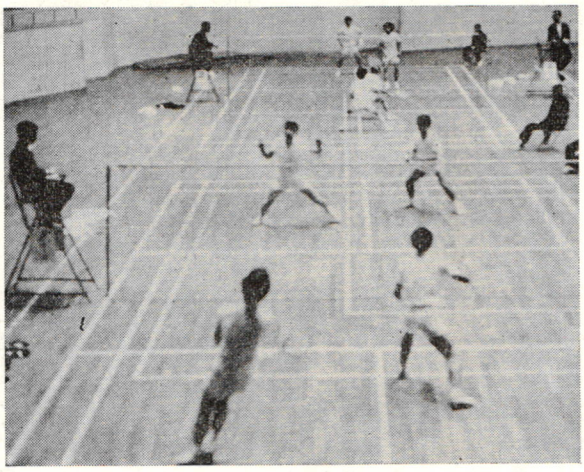
東日本学生選手権
女子は谷沢（日女）が二冠

46年度の東日本学生選手権大会は、舞台を北海道に移し、盛夏の七月十四日から十八日まで札幌市中島スポーツセンターで開かれた。

男子は関東の八校ほか東北から東北学院、それに道勢七校が女子では青山学院が欠場したが関東四、東北一、北海道四の計九校が参加した。

男子シングルスでは遠藤（日大）が谷口（立大）を破って初優勝、遠藤は関東学生新人戦、関東学生選手権と合わせ、輝く三大タイトルを手にした。また、遠藤は牧野と組んだダブルスも制し〝二冠王〟となった。

一方、女子も日女体の主将、谷沢が断然強く、シングルスでは後輩の塩崎をくだして優勝、ダブルスでは、この塩崎と組んで名和・栗原組（東女体）を破り優勝、やはり二冠を手にした。四種目とも勝者は初のタイトルである。



（カット写真は中部日本選手権）
——高月市体育館——から

バドミントン競技は、えてしてハードスケジュールで選手を悩ませるが、この大会は、気候も涼しい上、タイムテーブルが次の試合まで十分、休養できるように組まれ、なかなかによかった。

関東リーグ一部の強豪各校に欠場が多かったのは大学の定期試験と重なったため。しかし主催地の地元勢が、それに代わって、例年になく多数参加できたことは、意義深かった。

上位はやはり関東勢のものとなったが、男子ダブルスでは東北学院の渡辺・菅組がベスト4、加藤、曳地組がベスト8に、女子シングルスで伊藤（宮城学院）ダブルスで坂崎・大井（札静修）がベスト8に成ったことはほめられてよい。

試合の合い間には地元協会の要望で、関東地区—北海道・東北地区のエキシビション（対抗戦）を行い、親睦とプレーの向上をはかった。

この大会も、関東地区で開けば、関東以外の各校の参加は非常に少くなる。今度の成功を生かすため、今後、開催地の選定については、三地区代表の間で、話し合いを深める必要がありそうだ。

末尾ながら、市電、デパートにポスターが掲示され、一般の人々に少しでも多く見てもらおうと、地元協会、学連が努力した姿に敬意を表したい。

（全日本学連副委員長・保坂佳人）

■男子シングルス

▽準々決勝　牧野（日大）2—0菅沼（明大）、谷口（立大）2—0上野（慶大）、尾崎（中大）2—1丸山（中大）、遠藤（日大）2—0日下（中大）

▽準決勝　谷口2—1牧野、遠藤2—0尾崎

▽三位決定、尾崎2—1牧野

▽決勝

遠藤 2（15-18、13-8）0 谷口

■男子ダブルス

▽準決勝　尾崎・小泉（中大）2—0鈴木・上野（慶大）、牧野・遠藤（日大）2—0渡辺・菅（東北学院）

▽三位決定、鈴木・上野2—1渡辺・菅

▽決勝

牧野 遠藤 2（15-12、11-15、9-15）1 尾崎 小泉

■女子シングルス

▽準々決勝　谷沢（日女体）2—0時田（日女体）、池田（日女体）2—0栗原（東女体）、名和（東女体）2—0伊藤（宮城学院大）、塩崎（日女体）2—0柿崎（東女体）

▽準決勝　谷沢2—0池田、塩崎2—1名和

▽三位決定　池田2—1名和

▽決勝

谷沢 2（4-11、11-6、1-5）1 塩崎

■女子ダブルス

▽準決勝　谷沢・塩崎（日女体）2—0時田・鈴木（日女体）、名和・栗原（東女体）2—1遠

藤・田中（日女）
▽三位決定　鈴木・時田2―1遠藤・田中
▽決勝
谷沢・塩崎 2（1515―5、1515―6）0 名和・栗原

◇京都市長杯第六回京都市五青年の家大会（7月18日、京都市体育館）
▽準々決勝　高藤哲岳（東山）2―0桑田善道（中京）、伊佐恒範（中京）2―0中村道男（中京）、安藤秀道（東山）2―0山本紘（西陣）、松田文男（東山）2―1山下竜三（南）
▽準決勝　高藤2―0安藤、伊佐2―1松田
▽三位決定　安藤2―0松田
▽決勝
高藤 2（1515―3、1510―0）0 伊佐
（高藤選手は二連勝。南青年の家、東山青年の家、五青年の家の三大会とも優勝）

◇第一回京都市東山青年の家大会（東山青年の家体育館）
▽準決勝、高藤2―0久保、松田2―1安藤
▽決勝
高藤 2（1515―6、14―4）0 松田

◇愛知県社会人選手権大会（8月22日・愛知県体育館）

■一般男子シングルス
▽準々決勝
伊村（名鉄）2―0中橋（三菱重工）、八神（名市役所）2―0牛島（トヨタ自工）、松崎保（トヨタ自工）2―0武田（豊田織機）、樋口（名鉄）2―0森川（日本電装）
▽準決勝
伊村 2（1515―10）0 八神
樋口 2（15―15、15―5、15―11）1 松島保（キケン）
▽決勝
伊村 2（1515―8、15―0）0 樋口

■一般男子ダブルス
▽準々決勝
伊村・樋口（名鉄）2―0角・森川（日本電装）、東浦・松島信2―0深井・瀬戸口（豊田織機）、牛島・松島保2―0松波・加藤聖（三菱重工）、菱田・加藤（名鉄）2―0平松・清水（市役所）
▽準決勝
樋口・伊村 2（1515―7、16―0）0 松島信・東浦
松島保・牛島 2（1713―15、18―11、15―1）1 加藤・菱田
▽決勝
樋口・伊村 2（キケン）0 松島保・牛島

■一般女子シングルス
▽準々決勝
大橋（豊田織機）2―0村田（トヨタ自工）、紅谷（トヨタ自工）2―0鈴木（豊田織機）工藤（豊田織機）2―0橋本（トヨタ自工）、池田（トヨタ自工）3―1辻田（豊田織機）
▽準決勝
大橋 2（1111―23）0 紅谷
工藤 2（1111―35）0 池田
▽決勝
大橋 2（1111―47）0 工藤

■一般女子ダブルス
▽準々決勝
大橋・辻田（豊田織機）2―0堀・杉本（名鉄豊田紡）、富居・山本（豊田織機）2―0紅谷・村田（トヨタ自工）、工藤・紺野（豊田織機）2―0河口・内田（名鉄）、橋本・池田（トヨタ自工）2―0鈴木・林（豊田織機）
▽準決勝
辻田・大橋 2（1515―6、6―0）0 山本・富居
池田・橋本 2（1515―1、6―0）0 林・鈴木
▽決勝
池田・橋本 2（1518―12、13―0）0 辻田・大橋

■男子成年（三十才以上）ダブルス
▽決勝
鈴木・佐藤（三菱電機）2（15―3、15―5）0 山口・磯村（豊田織機）
◇男子壮年（四十才以上）ダブルス
▽決勝
井沢・後藤（名鉄）2（1515―2、15―5）0 中西・村尾（豊田織機）

■男子壮年（五十才以上）ダブルス
▽決勝
石川・成田（豊田織機）2（1511―15、15―8、6―1）1 鈴木・長谷川（裁判所、名商大附）
◇第24回北海道選手権大会（9月1～5日・札幌市体育館）

■一般男子シングルス
▽準決勝
堺（カワサキラケット）2―0山田（国鉄北海道）、土江田（札三川屋）2―1木村（電々札幌）
▽決勝
堺 2（15―14、15―8、17―5）1 土江田

■一般男子ダブルス
▽準決勝
中村・木村（電々札幌）2―0山本（カワサキラケット、国鉄北海道）
▽決勝

岩崎・中村 2（1515―13、15―8）0 木村・村田

■一般女子シングルス
▽準決勝
田村（地崎組）2―0渡辺（地崎商事）、高野（地崎商事）2―0今川（地崎組）
▽決勝
田村 2（1111―2、7―7）0 高野

■一般女子ダブルス
▽準決勝
渡辺・高野（地崎商事）2―0藤島・小笠原（函館協）、田村・今川（地崎組）2―0斉藤（地崎商事、菱電商事）
▽決勝
田村・今川 2（1514―12、18―7）1 渡辺・高野

■高校男子シングルス
▽準決勝
高木（札西）2―0松本（札工）
熊谷（江別）2―0上田（留萌）
▽決勝
高木 2（1515―12、5―5）0 熊谷

■高校男子ダブルス
▽準決勝
松本・佐藤（札工）2―0山川・小野寺（北海）、竹内・赤石（北海）2―1高木・熊谷（札西、江別）
▽決勝

竹内 2(15―9)0 松本
赤石 (15―10) 佐藤

■高校女子シングルス
▽準決勝
斉藤（新得）2―1渡辺（札北斗）、松田（新得）2―1児玉（札北斗）
▽決勝
松田 2(11―5 11―7)0 斉藤

■高校女子ダブルス
▽準決勝
児玉・渡辺（札北斗）2―0松田・斉藤（新得）、青木・東志（札啓北）2―0高山・小山（札静修）
▽決勝
児玉 渡辺 2(15―12 15―10)0 青木 東志

■教員シングルス
▽決勝
宮崎（札幌西小）2(15―5 15―3)0 上山（新得高）

■教員ダブルス
杉田・宮崎（札幌）2(15―4 15―5)0 神山・須貝（小樽）

■セミベテラン・シングルス
▽決勝
渋井（国鉄北海道）2(15―3 15―1)0 岡（道教育庁）

■セミベテラン・ダブルス
▽決勝
森田・小向（電々札幌）2(キャン)0 渋井・神山（国鉄室蘭）樽桜陽高教）

■ベテラン・シングルス
▽決勝
高橋（美瑛高教）2(11―5 11―12 11―3)1 島谷（上川教育局）

■ベテラン・ダブルス
▽決勝リーグ戦
①高橋・島谷（旭川協）②西野・高橋（北大OB）

■ベテラン混合ダブルス
▽決勝
山田・田村（札幌）2(15―11 15―11)0 渋井・渡辺（札幌）

◇46年度秋季宮城県実業団団体リーグ戦（11月28日、仙台市ウルスラ体育館）
▽一部リーグ ①自衛隊3勝②東北大職A2勝1敗③七十七銀行A2勝1敗④ソニー工場A3敗
▽二部リーグ ①ウルスラ教員3勝②簡易保険局2勝1敗③防衛施設局1勝2敗④東北大職B3敗
▽三部リーグ ①ソニー工場B3勝②ドミニコ教員2勝1敗③七十七銀行B2勝1敗④東北銀行3

◇46年度宮城県混合ダブルス選手権大会（11月28日、仙台市レジャーセンター）

■一部
▽準々決勝 山並・高橋（東北秋山）2―1曳地・鈴木（TG、MG）、柳川・鈴木（TG、MG）2―0加藤・志田（TG女商OG）、安斉・相沢（TG、女商OG）2―0阿部・田中（TG、MG）、岩淵・伊藤（TG、MG）2―1菅谷・高橋（TG、MG）
▽準決勝 山並・高橋2―0柳川・鈴木、安斉・相沢2―1岩淵・伊藤
▽決勝 安斉・相沢2―1山並・高橋
▽コンソレーション決勝 結城・堀口（TG、MG）2―1渡辺・坂地（TG、MG）

■二部
▽準々決勝 加藤・高野（仙高、二女OG）2―0高根・坂地（宮城ク、MG）、狩野・細谷（仙商ク、二女OG）2―0高橋・橋本（電通）、後藤・石垣（育英ク、塩釜OG）2―0佐藤・武田（仙商ク、MG）、三浦・佐々木（TGク、電力）2―0江戸・江未（TG二部）
▽準決勝 加藤・高野2―0狩野・細谷、後藤・石垣2―0三浦・佐々木
▽決勝 加藤・高野2―1後藤・石垣
▽コンソレーション決勝 古橋・石田（仙商ク、女商OG）2―1浜畑・石田（石巻ク）

◆第24回中部日本選手権大会
（9月25―26日・高岡市民体育館他）

■青年男子ダブルス
▽準々決勝
森・河田（川島紡績、多治見市教委）2―0川上・池田（不二越）、河村・今泉（高岡市役所）2―0寺崎・府岡（敦賀市役所、福井銀行）、北方・原（藤花高教、津幡高教）2―0稲垣・荒木（尚美クラブ）、関村・宮林（高岡市役所）2―0伊村・樋口（名鉄）
▽準決勝
今泉 河村 2(15―5 15―3)0 森 河田
宮林 関村 2(18―17 15―9)0 北方 原
▽決勝
今泉 河村 2(15―9 15―8)0 宮林 関村

■青年女子ダブルス
▽準々決勝
工藤・紺野（豊田自動織機）2―1稲水・岡崎（福井銀行）、飯田・天野（富山市役所、東海女短教）2―0嶋・石川（本州製紙）、橋本・紅谷（トヨタ自工）2―0森野・渡辺（本州製紙）、中村・富田（金沢大）2―1富居・山本（豊田自動織機）
▽準決勝
飯田 天野 2(15―10 15―2)0 工藤 紺野
橋本 紅谷 2(15―5 15―0)0 中村 富田
▽決勝
飯田 天野 2(15―8 17―14)0 橋本 紅谷

■少年ダブルス
▽準々決勝
下田・梅木（富商）2―0松本・水木（礪工）、古西・小場（岐東高）2―0原・木下（金沢市工）、別森・笠谷（高工）2―1山下・谷島（金沢市工）、藤木・三の宮（高商）2―0横山・浅野（岐東高）、
▽準決勝
下田 梅本 2(15―13 15―6)0 古西 小場
別森 笠谷 2(15―6 15―10)0 藤木 三の宮
▽決勝
下田 梅本 2(6―15 15―9 9―15)1 別森 笠谷

■少女ダブルス
▽準々決勝
森田・日比野（富田女高）2―0南・気谷（津幡高）、竹内・藤井（高志高）2―0大場・竹中（大豊高）、大井・西田（藤園高）2―0川崎・梅田（富田女高）
島田・草開（高女高、清光高）2―0角谷、島田（福井銀行）
▽準決勝

森田 2(1515—9)0 竹内
日比野
島田 2(1515—8)0 大井
草開 田
▽決勝
森田 2(1515—6)0 島田
日比野 12 開
■成年ダブルス
▽準決勝
大野 2(1515—3)0 松井
樋沢 2 村
奥村 2(1515—1)0 大沢
中田 13 坂
▽決勝
大野 2(15 8 15—9)1 奥村
樋沢 15 12 田
■壮年ダブルス
▽準決勝
後藤 2(1515—4)2 0 高方
伊沢 瀬
江尻 2(1515—1)8 0 林
畑 崎
▽決勝
後藤 2(1817—1314)0 江尻
井沢
■混合ダブルス
▽決勝
天野 2(151514—11117)1 稲木
森 寺 崎
■青年男子シングルス
▽準々決勝
松島保(愛知、トヨタ自工) 2—0長谷川(石川、藤花高校)、堂谷内(石川・津田駒) 2—0京田(富山・高岡市役所)、樋口(愛知・名鉄)キケン森(岐阜・川島紡績)、今泉(富山・高岡市役所) 2—0牛島(愛知・トヨタ自工)
▽準決勝
松島 2(151512—111315)1 堂谷内
今泉 2(1515—11)1 0 樋口
▽決勝
今泉 2(1515—25)0 松島
■青年女子シングルス
▽準々決勝
天野(岐阜・東海女子短) 2—1橋本(愛知・トヨタ自工)、中村(石川・金沢大学) 2—0紺野(愛知・豊田自動織機)、富居(愛知、豊田自動織機) 2—0池田(愛知、トヨタ自工)、飯田(富山、市役所) 2—0森野(静岡・本州製紙)
▽準決勝
天野 2(111211—51012)1 中村
飯田 2(1111—37)0 森野
▽決勝
飯田 2(1111—85)0 天野
■少年シングルス
▽準々決勝
西村(富山・県庁) 2—0浅野(岐阜・岐東)、後藤(岐阜・岐東) 2—0梅本(富山・富商)、下田(富山・富商) 2—0笠谷(富山・高工)
▽準決勝
西村 2(1515—80)0 後藤
横山 2(1515—76)0 下田
▽決勝
西村 2(1515—33)0 横山
■少女シングルス
▽準々決勝
島田(高女) 2—0角谷(福銀高)、日比野(富田高) 2—0木村(高女)、草開(清光高) 2—0南(津幡高)、森田(富田高) 2—0大久保(勝精高)
▽準決勝
島田 2(1211—91)0 日比野
森田 2(1111—55)0 草開
▽決勝
島田 2(1012—111141)1 森田
■成年シングルス
奥村(石川・自営) 2—0桶沢(富山・富士薬品)、大野(富山・十条) 2—0寺田(滋賀・彦根西高)
▽決勝
奥村 2(1515—615)1 大野
■壮年シングルス
▽準決勝
畑(福井・教員) 2—0中村(愛知・豊田自動織機)、林(新潟・日産化学) 2—0井沢(愛知・名鉄)
▽決勝
畑 2(1515—13)0 林
■混合ダブルス
▽準々決勝
飯田・清水(富山) 2—0角尾・梶谷(福井)、天野・森(岐阜) 2—0渡辺・日下部(静岡)寺崎・稲木(福井) 2—0庭田・岡崎(石川)、河村・河村(富山) 2—0橋本、牛島秀(愛知)
▽準決勝
森 天野 2(181710—151515)1 清水 飯田
寺崎 稲木 2(151511—4915)1 河村 河
▽決勝
森 天野 2(151514—11117)1 寺崎 稲木

訂正とお詫び

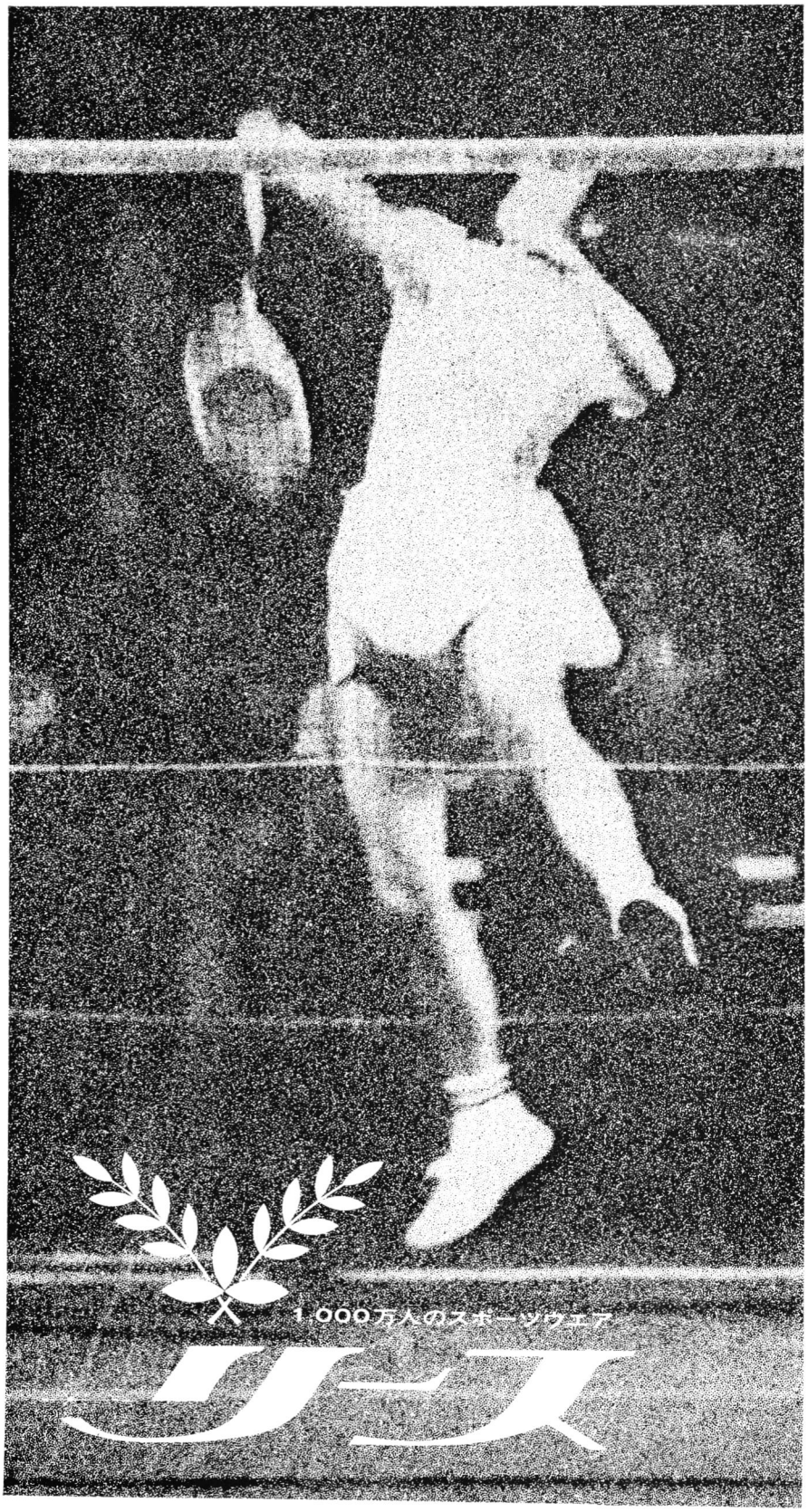
十一月号、短期連載「初心者の疑問に答える」の中で、三十頁に掲載した連続写真の順序が係の手違いにより誤ってしまいました。

全部で八枚の写真が並んでおりますが、正式な順序は①⑤④③②⑧⑦⑥です。訂正し、お詫びいたします。

＝編集部＝



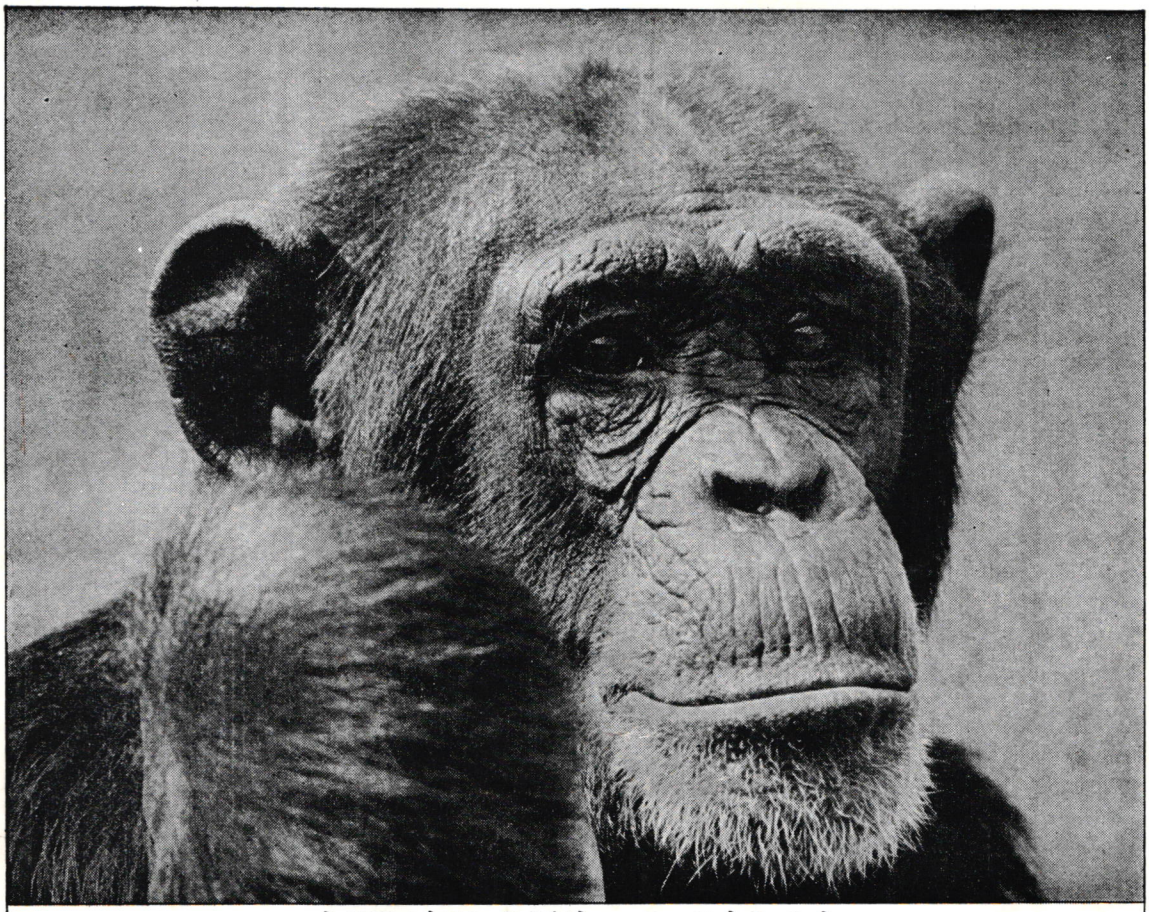
この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-1884・0453



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ

テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余カ国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで